

平成19年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成20年6月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

* 附属図書館ホームページにも掲載

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/overview/>

平成19年度神戸大学附属図書館年次報告

1. 達成度評価

- (1) 達成度評価特記事項 p . 1
- (2) 達成度評価表 p . 2

2. 学習・教育支援

- (1) 開館サービス p . 6
- (2) 学生用資料整備 p . 7
- (3) 資料提供サービス p . 9
- (4) 情報リテラシー教育の推進支援 p . 10
- (5) 設備・機器の整備 p . 12

3. 学術研究支援

- (1) 研究用資料の整備 p . 14
- (2) 電子的情報基盤の整備 p . 16
- (3) 蔵書目録データベースの整備 p . 19
- (4) 資料の保存 p . 20
- (5) その他の研究支援サービス p . 21

4. 社会連携・情報発信

- (1) 一般市民への資料提供サービス p . 22
- (2) 震災文庫 p . 23
- (3) 電子図書館システムによる情報発信 p . 24
- (4) 機関リポジトリによる情報発信 p . 26
- (5) 国際連携 p . 28

5. 管理運営等

- (1) 図書館組織と運営 p . 29
- (2) 事務組織と人事管理 p . 30
- (3) 予算及び財務会計業務 p . 33
- (4) 施設整備・システム整備 p . 34
- (5) 図書館界での諸活動 p . 36

< 付録 >

基本統計表	p . 3 8
蔵書・受入等の現況（各館室別）	
サービス業務の現況（各館室別）	
電子的情報サービスの現況	
図書館組織図・事務組織図	p . 4 1
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p . 4 2
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p . 4 8
附属図書館活動日誌	p . 5 0

1. 達成度評価

(1) 達成度評価特記事項

項目	「財務内容の改善」
特記事項	<p>(管理的経費の節減) 管理的経費の抑制に努め、平成19年度は前年度より約2.4%の予算を節減し、事業経費を拡充し、主に建物改修に伴う設備更新に振り替えて図書館設備の充実を図った。 管理運営費の主な節減事項は、以下のとおりである。 ・賃金等 業務合理化・効率化による非常勤職員雇用の抑制</p>
項目	「自己点検・評価及び情報提供」
特記事項	<p>(年次報告書の拡充と利用者ニーズ・満足度調査) 平成17年度年次報告書に引き続いて平成18年度版を作成しホームページで公開した。平成18年度版は、機関リポジトリによる情報発信として本学の学術成果リポジトリの活動を追加するとともに、各活動の記載内容を拡充したほか、達成度評価を掲載、部局予算決算、図書館統計等の評価指標データを充実した。 さらに、利用者ニーズや利用者満足度を測る手段のひとつとして、学生と図書館職員の懇談会を実施したほか図書館HPに「ご意見・ご要望」の欄を設け、利用者からの要望や意見をもとにサービス改善等に努めることにしている。</p>
項目	「その他業務運営に関する重要事項」
特記事項	<p>(職員の育成) 学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。 また、職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、FDに関する北米調査団の一員としての派遣や平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業への応募を行った。</p> <p>(人文科学図書館の集密書架増設) 人文科学図書館は、273,104冊(平成19年3月末現在)の蔵書を持つ専門図書館であるが、館内の図書収容力が24万冊ほどしかなく、図書収容の限界に達しており、図書収容力の増強が喫緊の課題であった。平成19年度の建物改修に伴う施設整備によってハンドル式集密書架(約36,000冊収納)が設置され、これにより収容力の大幅な改善が実現した。</p>
項目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	<p>(学生用資料整備の進展) 平成19年度当初予算で図書館学生用資料費(63,000千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続することができた。学生1人当たり1冊以上購入する経費は確保できている。全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が整備計画を策定し実施している。 また、平成18年度に整備した学生用図書に対する分析及び評価も実施し、運営委員会で報告・協議した。</p> <p>(研究支援機能の強化) 附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成19年度から平成21年度まで電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料について部局拠出分を含む全学経費(上限3億円)が措置されることになり、平成19年度は、2.8億円が予算措置され、平成18年度に引き続き約8,900誌の電子ジャーナルと42種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット10万円から500万円まで)を整備した(13点2千万円)。 また、情報資源の利活用を図るための環境整備として、リンクリゾルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセスやオンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク、文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)の平成20年度の導入・本格稼働に向けて準備した。 学内研究成果については、「神戸大学学術成果リポジトリ」として、コンテンツの充実を図った(3月末現在約7,200件)。博士学位論文要旨及び全文の登録推進に向けて関係部署と協議している。神戸大学研究者紹介システムとの相互リンクや国内外の統合検索サイト(Google, Junii+, OAlster)へのデータ提供を実現している。また、Kernel通信 第2号を発刊し、学内外に公開するとともに、Kernel広報用リーフレット及びグッズを作成し、教職員等に配付した。</p> <p>(図書館資料常設展の開催) 平成19年度は、社会科学系図書館2階に常設展示コーナーを設置し、年2回附属図書館常設展を実施している。第1回は9月から12月まで「近代神戸の源流を訪ねて - 開港と居留地 -」を開催し、来場者は374名であった。第2回は2月から6月までの予定で第1回のテーマを引き継いで「近代神戸の源流を訪ねて - 鈴木商店とマッチ産業の盛衰 -」を開催している。来場者は、5月13日現在で257名となっている。また、展示品はデジタル化し、図書館ホームページから電子展示している。 図書館展示会のページ http://www.lib.kobe-u.ac.jp/tenjikai/tenji.html</p>

(2) 達成度評価表

平成18年度附属図書館の活動総括として、附属図書館年次計画に対する達成度自己評価表を示す。

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置 1. 教育に関する目標を達成するための措置 (4)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 教育設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策</p> <p>・全学共通教育等の実施に必要な図書館機能を整備するとともに、教養・専門図書、映像音響資料等の学生用資料を充実させる。</p>	<p>・総合図書館開架閲覧室の書架・閲覧席配置見直しなど、全学共通教育科目履修生の学習環境改善を図る。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・各図書館室で不足または老朽化している家具類(閲覧机、閲覧椅子、書架等)、視聴覚機器、情報端末、無断持ち出し防止装置、自動貸出装置等を計画的に整備する。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張、図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・全学共通教育に対応する総合図書館、及び専門教育を支援する各専門図書館・分館において、学部学生に必要な教養・専門図書(シラバス掲載図書を含む)を幅広く(網羅した)系統的な資料収集に努めるとともに、利用状況の分析および収集資料の評価を継続する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>平成19年度、総合図書館の学習環境改善として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物改修に伴う全面的な配置の見直し ・書架及び閲覧機の増設及び更新 ・電動式集密書架(672棚)を4階に新設 ・グループ学習室の整備(4室を5室に) <p>平成19年度、各図書館室の設備備品整備として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内放送設備の整備(人文科学図書館、人間科学図書館) ・グループ学習室(1室)の整備(人間科学図書館) ・ハンドル式集密書架(1440棚)の新設(人文科学図書館) ・書架の増設及び更新(人文科学図書館、人間科学図書館) ・閲覧机、椅子の増設(自然科学系図書館) ・書架の増設(保健科学図書館) ・貴重資料等保管庫の新設及び更新(人文科学図書館、人間科学図書館) ・閲覧席(41席)の増設(人文科学図書館(32席)、人間科学図書館(9席)) ・マイクロフィルムキャビネットの増設(社会科学系図書館) ・CD・DVD資料閲覧用スタンドアロンPCの導入(医学分館) <p>平成19年度、各図書館室の閲覧学習環境の改善として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備事業に係る図書館施設の整備計画の実施(総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館) ・集密書架(2112棚)の増設(総合・国際文化学図書館(672棚)、人文科学図書館(1440棚)) <p>平成19年度当初予算で図書館学生用資料費(63,000千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続することができた。学生1人当たり1冊以上の学生用資料を購入する経費は確保できている。特に、授業に関連した学生用資料の充実を図った。</p> <p>全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が、目的、資料の範囲、財源及び選定方法等を記した整備計画を策定し実施した。</p> <p>また、各館室において平成18年度に整備した学生用図書に対する分析及び評価を実施し、平成19年度第4回附属図書館運営委員会で報告・協議した。</p>
<p>(6)学生への支援に関する目標を達成するための措置 学習相談、助書及び支援の組織的対応に関する具体的方策</p> <p>・附属図書館においては、資料提供や情報検索などのサービスの迅速化と高度化を図るとともに、情報教育を積極的に支援する。</p>	<p>・情報リテラシー教育支援体制を強化し、入学段階・教養教育・学部専門教育といったレベルや、専門分野を考慮した、きめ細かなオリエンテーション、ガイダンスを実施する。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・図書館ホームページの改訂、図書館メールマガジンの発行などICT技術の活用により、学生に対する情報提供や広報活動を強化する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・電子的学習資料の提供、Web情報資源情報の拡充など、自学自習のための窓口(ポータル)機能を充実する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・資料配送(デリバリ)サービスを拡充し、学部学生に対しても六甲台キャンパス内各図書館間の配送サービスについて段階的な実施を検討する。(H19-20)(附属図書館)</p> <p>・全学の図書目録透及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・開館時間延長、休日開館の拡大を優先順位に基づいて、実施していく。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>昨年度に引き続き、1年次必修科目「情報基礎」の1/2コマで、附属図書館職員が図書館サービスの概説を延べ25回担当し、約2,700名が受講した。附属図書館は各種のガイダンス及び操作説明会等を年間52回開催し延べ449名が受講した。</p> <p>また、学生用のリーフレット版図書館利用案内を、全学版と各館室版を作成し配付している。</p> <p>学生に対する情報提供や広報活動については、ICT技術を使ったより効果的な方法を検討した結果、平成20年3月に図書館HP(全体及び一部館室のトップページ)のデザイン・構成を統一する等全面改訂し、画面の見易さや操作性・利便性の向上を実現した。その後、デザイン・構成もほぼ全館室統一を達成している。</p> <p>なお、図書館HP(トップページ)へのアクセス件数は、月平均6,200件であり、前年度に並ぶ件数となっている。</p> <p>学習用Web版資料(E-Study資料)にJDreamII(科学技術全分野に関する文献情報)を追加するとともに同時アクセス数の増加を図った。</p> <p>また、情報資源を利活用するための環境整備として、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセスやオンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク、文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)の平成20年度の導入・本格稼働に向けて準備した。</p> <p>デリバリー量は現状のサービスの範囲内においても増加傾向であり、貸出数自体が毎年20%前後の増加傾向にあることも考え合わせると、学部学生への拡大(六甲台キャンパス)については、デリバリーに係る経費及び職員の業務負担の増加が不可避である。更に、図書に貼付しているOCR(図書ID)レベルに重複するものが存在することが判明し、その課題解決を早急に図らなければならない。19年度は、貸出時にOCRレベルをバーコードレベルに貼り替える等課題解決を図るとともに、配送の外部委託方法の見直しを含め、費用対効果等を検討した。</p> <p>図書目録透及入力事業を継続し、当初計画の6万5千冊を超える88,740冊の入力を達成した。内訳は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学系図書館和書(40,000冊)及び研究所図書館洋書(2,000冊) 国立情報学研究所との共同事業 ・社会科学系図書館洋書及び研究所図書館洋書(14,721冊) 外部委託作業 ・その他研究室返却資料等(32,019冊) 職員作業 <p>平成18年度から実施している平日夜間開館及び土日開館の時間延長を継続した。なお、各館室の利用動向を分析し、平成20年度には開館時間の延長を行っていなかった人間科学図書館でも試行的に開館時間の延長を実施することとした。</p>
<p>2. 研究に関する目標を達成するための措置 (1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 研究活動支援のための具体的方策</p> <p>・研究活動の支援のため、教員のみならず、研究支援職員に対する研修等も含め、自発的能力向上のための機会を増やし、また、図書館・学内共同利用施設など機能の充実を図る。</p>	<p>・専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する知識を持った職員の育成を図る。(H16-19)(附属図書館)</p>		<p>学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等により他の職員に能力開発に役立てるとともに、1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。</p> <p>また、職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、FDに関する北米調査団の一員としての派遣や平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業への応募を行った。</p>

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>(2)研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 研究に必要な設備等の活用と整備に関する具体的方策 附属図書館においては、電子資料等を含む学術情報の収集と提供、外国雑誌センター機能、他大学等との協同及び電子図書館システムによる情報発信など、研究支援機能の整備・強化を図る。</p>	<p>・電子ジャーナルなどの全学共同利用する研究基盤資料の整備について、厳しい財政状況のもとで持続可能な方策を検討し、学術情報インフラを計画的・安定的に提供する。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・人文・社会科学分野の学術雑誌に関する全国共同利用の拠点図書館として、外国雑誌センター機能の整備に努める。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・一次資料(図書・雑誌等)の十分な整備に努める。特に、各専門分野の基幹的部分に欠落が生じないよう、継続的かつ系統的な収集体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・全学の図書目録遊及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・本学の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-20)(附属図書館)</p> <p>・電子図書館システムのコンテンツ充実(震災文庫・新聞記事・所蔵貴重資料・教育研究成果等)と検索機能の高度化を図る。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・「神戸大学機関リポジトリ」構築を推進する。(H19)(附属図書館)</p>	<p>自己評価</p>	<p>附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成19年度から平成21年度まで電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料について部局拠出分を含む全学経費(上限3億円)が措置されることになり、平成19年度は、2.8億円が予算措置され、平成18年度に引き続き約8,900誌の電子ジャーナルと42種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット10万円から500万円まで)を整備した(13点2千万円)。</p> <p>また、情報資源を利活用するための環境整備として、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセスやオンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク、文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)の平成20年度の導入・本格稼働に向けて準備した。</p> <p>引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施している。また、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続している。</p> <p>附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成19年度は、2.8億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的・安定的に維持するとともに高額図書の整備を実施した。</p> <p>図書目録遊及入力事業を継続し、当初計画の6万5千冊を超える88,740冊の入力を達成した。内訳は、以下のとおり。</p> <p>・社会科学系図書館和書(40,000冊)及び研究所図書館洋書(2,000冊) 国立情報学研究所との共同事業</p> <p>・社会科学系図書館洋書及び研究所図書館洋書(14,721冊) 外部委託作業</p> <p>・その他研究室返却資料等(32,019冊) 職員作業</p> <p>海外の図書館との相互利用について、米国図書館との図書館相互利用(GIF:Global ILL Framework)システムに参加し、文献複写・現物貸借等のサービスを継続している。韓国とのGIFシステムについても平成19年度に参加した。また、平成19年度からパウチャー制度(国際間の相互利用においてIFLA(国際図書館連盟)が発行している利用券を用いた仕組み)を導入し活用している。</p> <p>電子的文献送達システム(DDS:ドキュメント・デリバリー・システム)については、各館に設置している複写機のスキャナ機能を活用する方法に変更し、平成20年4月から全館室で実施することとした。</p> <p>平成19年12月に韓国海洋大学校図書館との協力協定を締結し、資料交換等の事業を行うこととしている。</p> <p>電子図書館事業費により、震災資料(1,126点、累計43,066点)・学内研究成果等のコンテンツ作成を継続実施した。また、平成18年度に引き続き、科学研究費研究成果公開促進費の交付を受け、新聞記事文庫の事業を継続した。(約39,000記事を電子化、累計は約20万件)住田文庫については17点を電子化した。</p> <p>平成19年度のHPアクセス数は震災文庫が約47,000件、学内研究成果が約75,000件(うちリポジトリは約43,000件)、新聞記事文庫が約94,000件、所蔵貴重資料が約11,000件であった。</p> <p>平成20年2月に電子図書館システムのリプレースを実施し、最新のハードウェア及びソフトウェアを導入することにより、横断検索等の機能の追加や検索の応答速度の向上を図った。</p> <p>「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」として、コンテンツの充実を図った(3月末現在7,209件)。現在、博士学位論文要旨及び全文のKernelへの登録推進に向けて関係部署と協議している。また、Kernelと学内研究者紹介システムとの相互リンクや国内外のリポジトリデータの統合検索サイト(Google、Juni+ (国立情報学研究所)、OAlster(シンガン大学))へのデータ提供を実現している。</p> <p>Kernel通信 第2号を発刊し、学内外に公開した。</p> <p>また、Kernel広報用リーフレット及びグッズを作成し、教職員等に配付した。</p>
<p>3 その他の目標を達成するための措置 (1)社会との連携に関する目標を達成するための措置 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に係る具体的方策 附属図書館においては、夜間及び休日開館を含め、資料提供等による生涯学習の支援を行い、地域社会への貢献を図る。</p>	<p>・附属図書館資料展示会を開催し、地域市民に公開するなど、引き続き、図書館の公開サービスの充実を図る。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・地域の公共図書館等との間で、相互利用や研修活動など、積極的な連携協力を図る。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・「震災文庫」を地域住民や防災関係者等の幅広い研究ニーズに応えるため、資料の収集とデジタル化を更に進め、最大規模の関連資料コレクションとして、広く社会に公開する。(H16-21)(附属図書館)</p>	<p>自己評価</p>	<p>平成19年度は、社会科学系図書館2階に常設展示コーナーを設置し、年2回附属図書館常設展を実施した。第1回は9月から12月まで「近代神戸の源流を訪ねて - 開港と居留地 -」を開催し、来場者は374名であった。第2回は2月から第1回のテーマを引き継いで「近代神戸の源流を訪ねて - 鈴木商店とマッチ産業の盛衰 -」を開催している。</p> <p>また、学外者への館外貸出サービスを継続している。(総合・国際文化学図書館及び海事科学分館、放送大学兵庫学習センター等利用者については全館室)</p> <p>平成19年度は、引き続き兵庫県大学図書館協議会加盟館の図書館相互協働便覧を作成し、県立図書館を通じて県内公立図書館に情報を提供した。(同協議会の会長館、企画委員館としての活動)</p> <p>司書資格取得のための図書館情報学実習として他大学の学生1名を受け入れ、夏季休業期の3週間社会科学系図書館、総合・国際文化学図書館及び人間科学図書館の各係において実習を行った。</p> <p>また、国立情報学研究所との共催により「目録システム講習会(図書コース)」を9月12日から14日までの3日間主に社会科学系図書館で開催し、西日本の13機関から15名が参加した。</p> <p>さらに、兵庫県が実施している中学生の地域体験活動「ドライブするウィーク」に協力し、神戸市立筒井台中学校(神戸市中央区)の生徒4名、神戸市立鷹匠中学校(神戸市灘区)の生徒2名を、11月5日から9日までの5日間受け入れ、図書館職場体験の場を提供した。</p> <p>平成18年度に引き続き、資料収集を進めるとともに、震災文庫電子化を継続した(新規受入1,126点、電子コンテンツ作成 図書10点(累計424点))。これにより資料総数は43,066点、電子コンテンツ作成総数は約4,600点となった。平成19年度の閲覧者数は259名、HPアクセス数は約47,000件であった。12月に新潟大学主催の「シンポジウム 震災資料の保存と活用」に職員を派遣し、震災文庫の取組について報告した。</p>
<p>地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策 近隣の公私立大学等が集合する会館等において、教育研究交流を推進するとともに、大学関係に関する様々な課題について意見交換を行い、問題解決にあたるための連携を図る。</p>	<p>・引き続き、兵庫県大学図書館協議会の中心的な図書館として活動し、県内公私立大学図書館との連携を強化する。(H16-21)(附属図書館)</p>	<p>自己評価</p>	<p>引き続き協議会会長館を務め、総会・講演会・研究会・施設見学等の事業の運営に参画した。</p> <p>また、兵庫県大学図書館協議会加盟館の名簿改訂版及び相互協働便覧を作成し、加盟館に配付した。</p>

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>国立大学間の自主的な連携と協力体制に関する具体的方策</p> <p>・各種ブロック会議への参加や共同研修、人事交流等を通じ、大学運営に関する共通事項に関して情報交換を行い、問題解決に当たっての連携と協力を図る。</p>	<p>・国立大学図書館協会を中心とする電子ジャーナルコンソーシアム、図書館間相互貸借活動、各種共同研修等の連携・協力を維持・発展させる。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>引き続き、国立大学図書館協会の監事館として理事会等に参加した。また、同協会学術情報委員会に委員を派遣している。電子ジャーナルコンソーシアムにも引き続き参加した。近畿地区の国公私立大学図書館の連携・協力組織である「大学図書館近畿イニシアティブ」の運営委員館として活動している。また、能力開発専門委員会に委員を派遣している。</p>
<p>3 教職員の人事の適正化に関する目標を達成するための措置</p> <p>事務職員等の採用、養成、人事交流に関する具体的方策</p> <p>・特別な知識を必要とする者(例えば情報関係、特許関係、訴訟関係、診療報酬請求関係、労務管理関係等)の採用方法等を検討する。</p>	<p>・地区の職員採用試験に参加し、専門性(図書館学、情報技術、主題知識等)を考慮した図書系職員採用を行う。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員館として活動した。 平成20年4月に上記試験合格者を1名採用することが決まっている。</p>
<p>・専門性の向上を図るための専門研修の実施等について検討する。</p>	<p>・新しい図書館経営等に関する知識のほか、専門の情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する十分な知識を持った職員の育成を図る。(H16-19)(附属図書館)</p>		<p>学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。 また、職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、FDに関する北米調査団の一員としての派遣や平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業への応募を行った。</p>
<p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置</p> <p>事務組織の機能の見直しに関する具体的方策</p> <p>・事務の一元化・集中化と並行して、事務組織の横断的かつ総合的なサービス機能を発揮できる体制について検討する。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、附属図書館事務組織体制の見直し、業務フローの明確化・見直し等を実施し、業務の質的向上、職員の活力向上を図る。(H18-19)(附属図書館)</p>		<p>附属図書館事務部に附属図書館業務改善検討WG及び課題毎の検討WGを設置し、既存業務の見直し、改善や、新規業務の具体化、研究、教育活動に密着した支援サービスに対応した事務組織の在り方などの検討を進めている。</p>
<p>事務処理の効率化と合理化に関する具体的方策</p> <p>・各種事務処理を見直すとともに、平成17年度以降に学内ネットワークのアップグレードにより情報の共有化を図り、文書管理、会議の開催通知、会議室の予約管理など事務処理の簡素化と迅速化を図る。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、さらに各館室の業務標準化、自動化、簡素化を推進する。(H18-20)(附属図書館)</p>		<p>平成19年度は、以下の業務標準化や簡素化に向けて検討を進めている。 ・各種手続きの統一など図書館サービス業務の標準化・簡素化に向けて、WGを設置し検討を進めている。ネットワークと文献画像伝送システムを活用した文献複写サービスに関して検討し、日韓GIF(Global ILL Framework)を4館で開始するとともに、DDS(ドキュメントデリバリーサービス)を平成20年度から全館室で実施することにした。今後は、学生への貸出冊数と期間、卒業生を含む学外者へのサービス改善について重点的に検討する。 ・図書分類の標準化について、WGを設置し検討している。検討結果を基にし係長会議等で今後の方針について協議している。</p>
<p>業務の外部委託等に関する具体的方策</p> <p>・業務処理の点検を行い、職員の業務を分析し、費用対効果を考慮して業務の外部委託を実施し、業務の合理化に努める。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、アウトソーシングの導入を検討する。(H18-20)(附属図書館)</p>		<p>平成19年度は、以下のアウトソーシングを継続した。 ・雑誌製本業務に関連した業務 ・目録データ・装備付き納品業務 ・文献複写業務(社会科学系図書館) ・時間外開館サービス業務(社会科学系図書館及び医学分館)</p>
<p>財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>資産の効率的運用を図るための具体的方策</p> <p>・継続的な施設の点検と評価を踏まえ、教育研究活動に効率的なスペース配分など、施設の有効活用を推進する全学的方針の確立を図る。</p>	<p>・貴重図書管理・保管体制を整備するとともに、資料劣化への対策を実施する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・図書資産の点検作業を適切に行うとともに、重複資料・不用資料の計画的な処分、資料保存基準の見直し等によるスペースの有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>虫害が進行している小林文庫(人文科学図書館)について薰蒸処理を実施した。 洋書稀覯書(社会科学系図書館所蔵)のうち劣化の激しいもの(113点)について、修復補修作業を実施した。</p> <p>昨年度に引き続き、図書資産の点検を社会科学系図書館及び海事科学分館において実施した。 なお、点検方法及び点検対象について、大幅な見直しを行うためWGを設置し検討を進めている。その一環として、所蔵データベースに未登録の資料について、簡易データの作成や仮IDラベルの貼付等の有効性を調査・検討している。 また、重複資料・不用資料の計画的な処分について、WGを設置し検討を進めている。その結果、逐次刊行物について重複状況の基礎調査を改訂し、保管責任館の1次案を作成する作業を行うとともに、重複雑誌の整理について基本的な手順を作成した。</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置</p> <p>合理的な評価システムを形成するための具体的方策</p> <p>・評価のレベルを次のように分け、これらを段階的に進めて評価を行う。</p>	<p>・毎年、図書館活動全般に及びる年次報告書を作成し、活動全般、年次計画達成度等についての自己点検評価を行うとともに、全学的な評価あるいは外部評価にも耐えらるるデータを蓄積、整備する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>附属図書館評価委員会を開催し、平成20年度年度計画及び平成19年度年度計画達成度評価について検討した。 また、昨年に引き続き「年次報告」を作成、根拠資料の蓄積を図る予定である。</p>
<p>部局レベル: 部局において「評価委員会」を設置し、個人や部局の基礎指標並びに部局の重点課題について評価を行う。</p> <p>・評価結果については、適切な基準を定めて公表する。</p>	<p>・図書館ホームページに投書箱を設けるなど、継続的に利用者ニーズを把握する方法を検討し、実施する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>継続的に利用者ニーズを把握する方法として、平成20年3月改訂予定の図書館HP上に「ご意見・ご要望」として投書箱を設置するとともに、学生と図書館職員の間談話を平成19年度は社会科学系図書館において実施し、積極的に意見交換を行った。</p>
<p>その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置</p> <p>施設設備の有効活用に関する具体的方策</p> <p>・施設の点検と評価を継続的に実施することにより既存施設の有効活用を図る。</p>	<p>・重複資料、不用資料等の処分を計画的に実施し、累積的な蔵書増加を抑制、書架の有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>昨年度に引き続き、図書資産の点検を社会科学系図書館及び海事科学分館において実施した。 なお、点検方法及び点検対象について、大幅な見直しを行うためWGを設置し検討を進めている。その一環として、所蔵データベースに未登録の資料について、簡易データの作成や仮IDラベルの貼付等の有効性を調査・検討している。 また、重複資料・不用資料の計画的な処分について、WGを設置し検討を進めている。その結果、逐次刊行物について重複状況の基礎調査を改訂し、保管責任館の1次案を作成する作業を行うとともに、重複雑誌の整理について基本的な手順を作成した。</p>

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>施設設備等の機能の充実に関する具体的方策 ・教育研究に応じたスペースの確保、充実を計画的に推進する。</p>	<p>・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張・図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>平成19年度、各図書館室の設備備品整備として以下を実施した。 ・館内放送設備の整備(人文科学図書館、人間科学図書館) ・グループ学習室(1室)の整備(人間科学図書館) ・ハンドル式集密書架(1440棚)の新設(人文科学図書館) ・書架の増設及び更新(人文科学図書館、人間科学図書館) ・閲覧机・椅子の増設(自然科学系図書館) ・書架の増設(保健科学図書室) ・貴重資料等保管庫の新設及び更新(人文科学図書館、人間科学図書館) ・閲覧席(41席)の増設(人文科学図書館(32席)、人間科学図書館(9席)) ・マイクロフィルムキャビネットの増設(社会科学系図書館) ・CD・DVD資料閲覧用スタンドアロンPCの導入(医学分館)</p>
<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置 労働安全衛生法、学校保健法等を踏まえた安全衛生管理、保健管理及び事故防止に関する具体的方策 ・実験室等の安全点検を定期的に実施し、必要な補修、改修、更新等の処置を実施する。</p>	<p>・図書館施設・設備の安全点検に努め、利用者・職員の事故等防止のための措置を着実に進める。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>安全衛生委員の館内点検を毎週継続実施した。</p>

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

		総合国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	845-2130	845-2130	845-2130	845-2000	845-2100(注2)	845-1700	845-2100	845-2000	845-2000
	土曜	1000-1800	1000-1800	1000-1800	1000-1800	1000-1800	休館	900-1700	1000-1800	1000-1800
	日曜	休館	1000-1800(注1)	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 1700まで 土日休館	8月のみ 土日休館	平日 1700まで 土日休館	平日 1700まで 土日休館	平日 1700まで 土日休館	通常期と 同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 1700まで 土日休館	平日 1700まで 土日休館
試験期 特別開館	日祝 1000-1800	祝 1000-1800	日祝 1000-1800	平日21:00 まで延長 日祝 1000-1800	平日21:00 まで延長 日祝 1000-1800	通常期と 同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日21:00 まで延長 日祝 1000-1800	

(注1) 毎月第1日曜日は除く

(注2) 20:00 から 21:00 まで開館時間の延長を試行(平成20年度)

19年度の開館時間帯は上表のとおりであり、18年度から下記に示すように平日時間外、土曜日及び日曜日の開館時間を拡大した。

平日：総合・国際、社会科学系、自然科学系の3館で、8:45-20:00を8:45-21:30とした。

土曜日：総合・国際、自然科学系、人文科学、人間科学、海事科学の5館で12:30-17:00を、社会科学系で11:00-17:00を、保健科学で11:00-14:30をそれぞれ10:00-18:00とした。

日曜日：社会科学系で11:00-17:00を10:00-18:00とした。

<入館状況>

平日 8:45～17:00 時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H19/H18	0.83	1.09	1.14	1.17	0.84	1.22	0.90	0.98	0.96	0.93
H18年度	1532.2	665.3	480.9	234.1	397.2	33.7	247.4	345.5	188.9	456.3
H19年度	1268.1	727.2	546.6	274.1	333.5	41.0	221.6	336.9	180.5	425.9

上表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の1日あたりの入館者数を18年度と比較したものである。全体的には微減を示しているが、耐震改修工事に伴う利用の一部制限や休館措置等を考慮すると、ほぼ前年度並みである。

<夜間開館>

平日夜間時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H19/H18	0.78	1.07	1.31	1.21	0.87	-	0.90	0.93	0.92	1.01
H18年度	218.7	292.8	156.2	41.7	57.8	-	76.9	61.9	35.4	105.1
H19年度	171.1	313.1	205.2	50.4	50.0	-	69.0	57.7	32.6	106.1

ほぼ前年度実績に近い結果を示している。総合・国際文化学図書館の減少が著しいが、主に耐震改修工

事に伴う休館が影響しているものと思われる。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H19/H18	3.32	1.12	1.47	1.49	1.10	-	1.53	1.52	0.94	1.40
H18年度	121.7	355.7	182.6	45.6	71.8	-	100.0	88.4	85.1	160.4
H19年度	403.8	399.5	268.1	68.0	79.3	-	153.2	134.3	80.1	225.3

- ・ 18年度から土・日・祝日の開館時間を、総合・国際、自然科学系、人文科学、人間科学、海事科学の5館で4.5時間から8時間(1.8倍)に、社会科学系図書館で6時間から8時間(1.3倍)に、保健科学図書室で3.5時間から8時間(2.3倍)に延長している。
- ・ 18年度と比較すると全体で約40%増を示しているが、ここには開館時間延長の効果と「はしか(麻疹)」による全学休校に関する授業の振替措置(土曜日に実施された補講時における図書館利用)とが反映していると見られる。

<24時間開館>

- ・ 前年どおり、医学分館と自然科学系図書館で実施した。利用者数は右表のとおりで、医学分館で増加した。
- ・ 19年度も両者の利用者数には大きな開きがあるが、これは医学分館では主に医学科2年次以上の学生が学習に使っているのに対し、自然科学系図書館では院生以上が雑誌論文の複写のため入館するのが主であるという、利用スタイルの違いによるものである。

	自然系	医学
H19/H18	0.46	1.03
H18年度	329	19,327
H19年度	151	19,814

評価と課題

19年度は「はしか(麻疹)」による全学休校と土曜日に実施された補講、及び総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館で行われた耐震改修工事等、例年にはない出来事によって利用者サービスは様々な影響、制約を受けることとなった。

そのため、入館者数を対18年度比で見ると全体的に下降傾向を呈する結果となったが、上記の諸事情を勘案するならば、前年度なみの利用があったものと判断できよう。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

<資料費予算と重点整備>

- ・ 図書館予算(図書館セグメント)として各館室に配分する経費と、サービス対象部局から拠出された経費(部局セグメントの図書資料費)を合わせて、各館室の学生用資料整備を行う予算構造となっている。
- ・ 19年度は図書館予算として6,300万円(内重点配分500万円、e-study資料費300万円)規模とし、部局拠出分と合わせて引き続き学生用図書資料の充実を図った。これは18年度と同様に部局拠出分が減少するなかで、学生用図書費の増額を最重点の事項として要求し、部局拠出分と合わせ計画的で着実な資料整備を目指すことが認められたことによるものである。
- ・ 18年度より震災文庫資料費(50万円)は独立した予算項目となっている。

- ・ 20 年度においても、この資料整備計画は維持され図書館予算としては 6,300 万円が配分される見込みである。また 19 年度と同様に高額教育研究基盤図書費 (2,000 万円) が措置されるため、学生用に研究用を含めた資料費の総額は 8,300 万円となる予定である。
- ・ 19 年度の重点整備は、総合図書館に 100 万円、社会科学系に 400 万円を配分して整備した。
- ・ また、16 年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館 (2,986 冊) 社会科学系図書館 (1,495 冊) 自然科学系図書館 (1,087 冊) 人間科学図書館 (834 冊) 保健科学図書室 (579 冊) において実施し省力化・合理化を進め、その人的資源を目録遡及入力作業等に投入した。

< 各館室の整備状況 >

H19 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	4,564	594	4,217	2,885	566	1,250	89	1,157	1,634	2,558	19,514
雑誌種数	100	37	45	174	23	174	0	175	116	307	1,151

- ・ 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

< 選書体制と収集方針 >

- ・ 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」(附属図書館運営委員会決定) に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」(構成委員は職員) を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。

< 選書評価 >

- ・ 18 年度から、前年度に整備した学生用図書の利用状況の分析及び収集資料の評価を開始した。

評価と課題

17 年度以降、学生用資料費の図書館予算が大幅に増額され、概ね要求は満たされたものとなっており、引き続き教育・学習活動の支援・拡充を図るために、現行の予算規模を維持する必要がある。

これまで配分予算が不十分であった学生用図書について早急な対応を図るため、重点整備を実施してきた。16 年度においては総合図書館と自然科学系図書館に配分、17 年度は総合図書館と人文系(国際文化学、人文科学、人間科学) の各図書館に配分、18 年度は総合図書館と医学分館、保健科学図書室、海事科学分館に配分、そして 19 年度は、社会科学系図書館に 400 万円、総合図書館に 100 万円 (大規模改修が予定されているため、総合図書館分を従来の 400 万円から抑えた額とした) とし、重点配分額全体を従来の 1,000 万円から 500 万円とした。これで全館室の重点配分は一巡することとなり、20 年度は重点配分を行わないこととなった。

なお、各館室の蔵書構成及び資料利用実態等を分析・評価し、今後重点配分の実施の是非等について再検討する必要がある。

18 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施した結果、選定が蔵書構成上並びに利用上ほぼ適切に行われたことが実証されている。(附属図書館運営委員会〔平成 19 年度第 4 回開催〕に各館室の選定結果及び評価として資料配付の上報告)

(3) 資料提供サービス

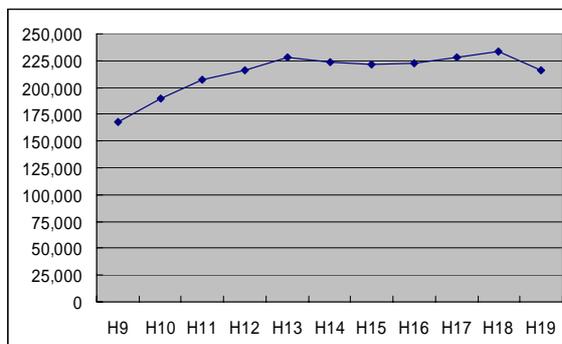
入館者数、貸出冊数等は別添基本統計のとおりである。相互利用サービスについては、3(5)に後述する。

《貸出サービス》

貸出冊数等の条件面での変更など、特に運用に関係する変更はなかった。

< 貸出冊数（学生・院生）経年推移 >

9年度から19年度までの図書館全体の貸出冊数の経年推移を右に掲げた。



< 館室別学生・院生貸出数 >

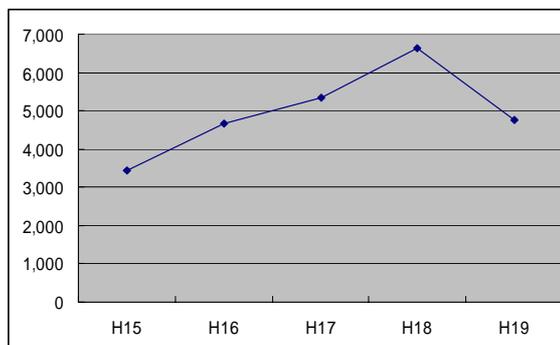
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H19/H18	0.84	0.89	1.14	1.03	0.93	0.76	0.78	0.97	0.97	0.92
H18年度	64,943	70,323	29,733	14,102	16,156	1,172	8,542	13,875	14,437	233,283
H19年度	54,630	62,743	33,869	14,545	14,991	891	6,666	13,412	13,970	215,717

・自然科学系図書館、人文科学図書館で貸出冊数が伸びているが、貸出冊数の多い総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館では、合わせて2万冊弱の減になった。

《デリバリ（図書配送）サービス》

< デリバリサービス貸出冊数推移 >

15年度から19年度までの経年推移を右に掲げた。



< 館別デリバリ貸出冊数 >

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H19/H18	0.54	0.76	0.95	0.83	0.72	-	0.81	1.14	0.73	0.72
H18年度	1,979	1,531	619	477	1,422	-	129	151	337	6,645
H19年度	1,065	1,162	588	395	1,027	-	105	172	245	4,759

・院生以上を対象に12年度からサービスを行い年毎に貸出冊数の増加が続いてきたが、19年度は減少に転じた。なかでも、総合・国際文化学図書館は耐震改修工事に伴う一部利用制限から半減したものと考えられる。またその大幅な減少が全体を押し下げる要因として強く働いている。

評価と課題

順調な伸びを見せてきた貸出冊数が減少に転じた。耐震改修工事期間、総合・国際文化学図書館では、プレハブ仮設図書館への移転に伴って休館があったこと、仮設図書館でのサービス期間は閲覧・自習スペースはなく、また開架図書や書庫利用に一部制限のあったことなどの理由により、入館者数が減少し、このことが貸出図書冊数の大幅減という結果につながったと思われる。

デリバリサービスの利用減少についても同様のことが言えよう。デリバリサービスの増加は経費の追加投入を必要とするため、適切な規模内での利活用が望ましい。

一度も図書の貸出を受けたことがない利用者、特に学部学生の人数を把握することは、学生の質保証の担保や図書館利用の拡充といった施策の検討上、重要と思われる。

(4) 情報リテラシー教育の推進支援

< 情報リテラシー教育支援 >

- ・ 16 年度より設けられた全学共通必修科目「情報基礎」では、昨年度に引き続き 1/2 コマ（約 45 分）が「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」にあてられ、5 月下旬～7 月上旬を中心に計 25 回（補講・再履修を含む）情報リテラシー係職員が講義（実習を含む）を行った。学部新生全員に補講等を加え、約 2,700 人が受講対象であった。
- ・ 図書館ホームページ上のサービス紹介を満遍なく行う従来のスタイルを変更し、レポート・論文作成のため、各種データベースの紹介、所蔵検索 OPAC（実習を含む）・パーソナルサービス等を強調することとした。
- ・ 19 年度に向けて、テキストの改訂も行っている。

< オリエンテーション、ガイダンス >

- ・ 情報リテラシー係を中心に以下のガイダンスを開催した

名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	施設紹介・利用全般	4、10 月	5 分	六甲ホール	2	約 500 名
情報の探し方 OPAC ガイダンス	OPAC の検索方法、 資料入手方法	4 月中旬	60 分	総合図書館	15	114 名
情報の探し方ガイダンス (基本的な DB の使い方)	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」「e-study」	5 月中旬	60 分	自然系図書館	15	54 名
情報の探し方ガイダンス (個々の DB の使い方)	JdreamII、Web of Science、日経テ レコン 21、聞蔵 II ビジュアル	6 月中旬	60 分	社会系図書館	8	133 名
情報の探し方ガイダンス (秋期 初級・中級編)	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	10 月下旬	60 分	自然系図書館	4	24 名
情報の探し方ガイダンス (秋期 初級・中級編)	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	10 月下旬	110 分	海事科学分館	1	14 名
情報の探し方ガイダンス (秋期 初級・中級編)	雑誌論文検索方法 「国内編」と「海外編」	10 月下旬	60 分	保健科学図書室	2	22 名
SciFinder 講習会	SciFinder	6 月	90 分	自然系図書館	1	22 名
理・化学科 3 年生	雑誌論文検索(4 月) SciFinder(6 月)	4 月、6 月	180 分	基盤センター 自然系図書館	2	32 名
オーダーガイダンス	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	5、6、9 月	60～120 分	国文・経済・理学 部等	4	34 名

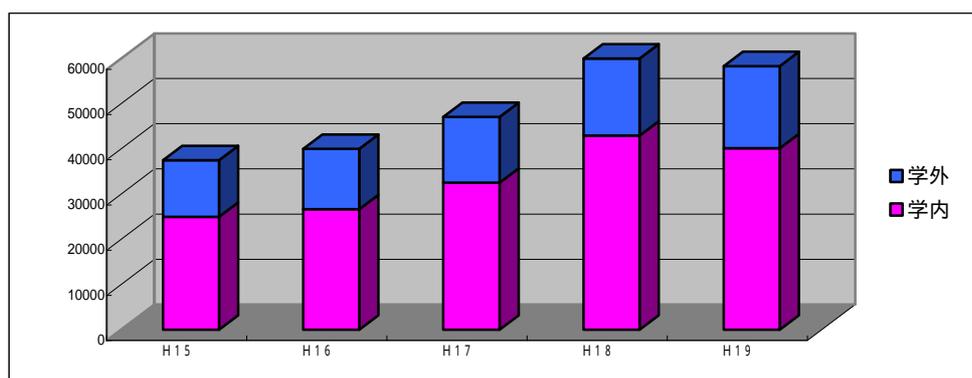
- SciFinder、JdreamII、Web of Science、日経テレコン 21 及び閩蔵 II ビジュアルのガイダンスは、各システムに新しいサービスが加わったためベンダー派遣講師を招いて、対象も教員・院生・学生と幅を広げて実施した。その他は情報リテラシー係職員が講師を務めた。
- 春期のガイダンスは例年通り実施した。会場スペース（PC 端末エリア）に、スクリーン・マイクを使用して、PC 端末がない場合でも理解できるように工夫した。秋期においては耐震工事が入り、昨年と同様のメニューを実施することができなかつたため、希望のあった海事キャンパスと保健科学図書室にて行った。
- 3月のホームページのリニューアルに際して、ガイダンスや情報基礎のページを目立つ配置にし、データベースのページにも各種ガイダンス資料を内容別に整理して示すなど、アクセシビリティの向上に努めた。

< 図書館ホームページの維持・更新 >

- 月平均アクセスは約 58,400 件となっている（月別アクセス数は別添統計の通り）。
- 学内各部局等のトップページの標準化を機に電子図書館システムのリプレイスに合わせ、3月よりホームページのリニューアルを行った。以前のトップページ作成時の「情報発信強調」から「訪問者が求める情報への効率的な誘導」につながるよう、ユーザーインターフェイスの向上を図った。Web からの各種申込（パーソナルサービス）やガイダンスに関する認知度を上げるため、トップページメニューの見直しや利用案内・ガイダンス情報・データベース情報等を改訂した。加えて、各館室の頁フォーマットを統一するため CMS*を導入することでホームページの構築・管理を行い、また利用者へのサービス面を充実させることでアクセシビリティ向上を目指した。
- ガイダンスに際して作成した資料をホームページに順次アップしている。その他、各種情報のメンテナンス、新着事項の掲載等を引き続き行った。

(*)CMS (Content Management System) は、さまざまな種類のデジタル情報を統合的に管理して、目的に応じて効率的に利用できるようにする仕組みのこと

図書館トップページ月平均アクセス数



評価と課題

必修科目「情報基礎」は 4 年目に入り、滞りなく運営できた。「情報の探し方」等のガイダンスへの積極的な参加者はある程度限定されるので、必修授業の中で全員に説明できることは教育支援効果が大きい。ただ今回は、「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」を図書館サービスと合わせて説明するのに 45 分という時間は十分でなく、一方で新入生が実感を持てる内容は限られている。理学部化学科で 3 年次必修授業でのガイダンスを毎年行っているが、4~6 年間の履修・学習全体の中での情報リテラシー授業のあるべき姿を考えていくことが望ましい。

「情報の探し方」等のガイダンスについては、会期・運営方法・広報に試行錯誤を重ね、一定の参加者増があったものの、秋期のガイダンスについては耐震工事のため開催する館室が限られた状態で実施した。非常に熱心な受講者もあり、また少しずつではあるがオーダーガイダンスも認識され今後とも継続していく意義がある。ただ、全学生数から見れば参加者はまだ少なく、広報等さらに改善の必要がある。

図書館ホームページについては、サービスの認知度向上をめざしてトップページメニューを見直し、また各館室情報の構成の統一と充実を図るため CMS を導入したが、リンク集の整備、英語版ページの充実など、なお残る見直し課題がある。また、ホームページ上でのみの情報発信や広報には限界があり、メールマガジン等の新たな広報手段の検討並びに教員、研究科・学部事務との連携強化を図る必要がある。

(5) 設備・機器の整備

施設面の整備については、5(4)で記述することとし、本章では学習環境改善のための設備・機器に絞った整備について記述する。

< 設備更新による学習環境の整備 >

- ・ 建物改修が行われた館室以外の整備で、特に学習支援に直接係わる事項として次のものがある。

自然科学系図書館	不要雑誌架の処分による空きスペースに閲覧机・座席を増設
保健科学図書室	木枠付スチール書架の更新
海事科学分館	利用者用ロビーチェアの設置

< 自動貸出装置等 >

- ・ 平成 19 年度においては、自動貸出装置等の更新はなし。

利用者のセルフサービスを支援する機器類の導入状況は次のとおりである。

自動貸出装置	研究所を除く各館室
BDS(無断持出防止装置)	研究所を除く各館室
24 時間入退館システム	自然科学系図書館、医学分館
セルフコピー(コイン式等)	研究所を除く各館室

< 情報機器の更新 >

- ・ 電子図書館システムのリプレイスにより、利用者用端末 99 台を更新した。
- ・ 利用者用 PC 等の設置台数は次の通りである。

	総国	社会	自然	人文	人間	医学	保健	海事	研究所	合計
PC 台数	46	45	40	16	17	15	12	12	3	206
(*1)	(25)	(15)	(20)	(10)	(10)	(7)	(7)	(5)	(0)	(99)
(*2)	(12)	(11)	(12)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(0)	(50)
一部サイト(*3)	(8)	(15)	(8)	(3)	(4)	(4)	(2)	(3)	(3)	(50)
スタンドアロン等	(1)	(4)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(7)
情報コンセント	80	21	12	14	9	30	4	8	0	178

- * (*1) 99 台は電子図書館システムのリース品
- * (*2) 50 台は学術情報基盤センター統合情報基盤計算機システムのリース品
- * (*3)は、OPAC に加えて限定された検索サイト（国会図書館等）がアクセス可能なもの

評価と課題

20 年 2 月の電子図書館システム更新に伴い、利用者用端末 99 台を最新の iMac に更新し、機能面の充実を実現した。さらに、統合情報基盤計算機システムの教育用端末と OS 及びアプリケーションが全学的なレベルに統一されたことにより、利便性が増すこととなった。

また、3 館で実施された改修工事により、認証付き情報コンセントの接続可能数が 97 口から 178 口に増加し、今後の利用が見込まれる。

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

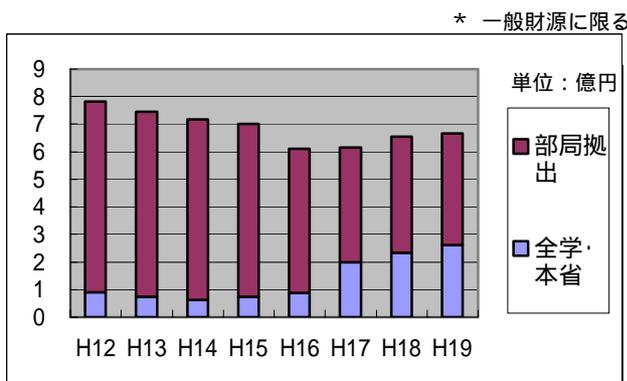
各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計の通りである。

< 資料受入状況 >

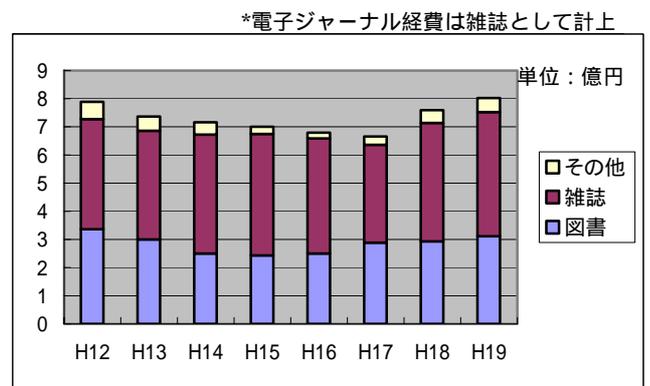
* 15年度まで館室によって学習用・研究用を分けがたい場合が多いため、総計の経年推移を示す。

注) 下記統計数値は、神戸商船大学、経済経営研究所など当時図書館組織外だった館の数値も合算した値

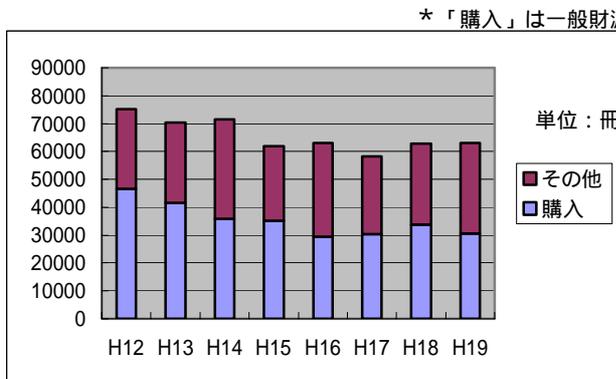
(図1) < 資料費経年推移 >



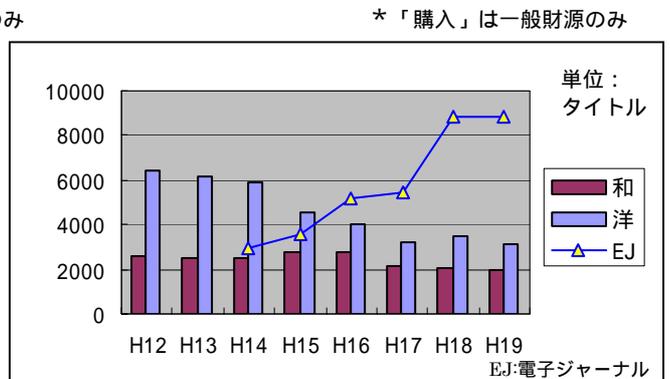
(図2) < 資料費の用途別内訳推移 >



(図3) < 受入図書冊数経年推移 >



(図4) < 購入雑誌数経年推移 >



- ・ 図書資料費の減少傾向(図2)は、平成17年度以降の学生用図書費の増額と、19年度から3年間の期限で予算措置された教育研究基盤資料整備費(3億円を上限とする)により歯止めがかかっている。しかし、資料費総額で見れば、平成12年度水準まで回復したものの、ほとんどが雑誌資料費の上昇によるもので、図書資料費は平成13年度水準に留まっている。
- ・ 図書資料費は、前述の教育研究基盤資料整備費の一部として高額教育研究基盤図書費(2,000万円)の配分もあり、前年度より増額となっているが、図書購入冊数は昨年より減少している。(図3)
- ・ 雑誌資料費(図2)は過去8年間で最高となっているが、図4によると、和雑誌の購入タイトル数は横ばいで、洋雑誌の購入は19年度に電子オンリー中心の包括利用契約に変更したため、冊子体の購入タイトル数は減少している。しかし、電子ジャーナルの契約数は14年度の契約開始から急激に増加しており、学術雑誌情報リソースとしては格段に増加している。

- ・ 数年来の傾向として、一般財源（校費）が減少した分、科学研究費・委任経理金等外部資金による購入の比重が高まっている。

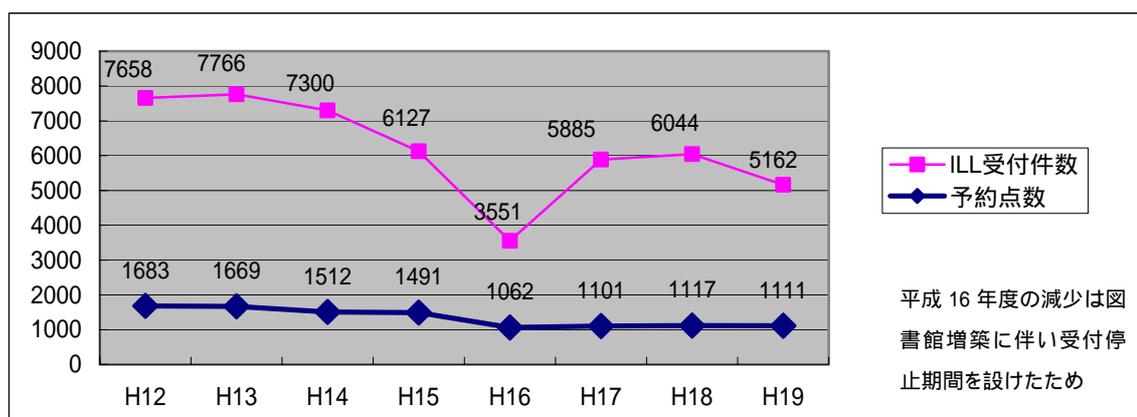
<大型図書>

- ・ 人文・社会科学系分野において、教員・講座単位では、高額な図書の購入が困難であることが懸案事項になっていたが、19年度から高額教育研究基盤図書費が2,000万円の枠で措置されることになり、1件10万円以上500万円以下の高額図書計13点を整備し、全学共同利用に供した。

<外国雑誌センター館>

- ・ 昭和61年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内に所蔵の少ない外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センター館は全国で計9大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の2大学に設置され、分担収集を行っている。
- ・ 外国雑誌センター館本来の趣旨に鑑み、所蔵希少雑誌として選定後、所蔵大学が4館以上となった雑誌を中止し、その分新規雑誌を追加した結果、19年度予約点数は1,111誌となった。
- ・ ILL複写サービスについては、19年度も一部作業を外注化するなどして、年間を通じ安定したサービスができる体制を整えることとした。これにより、他大学等からの複写依頼を常時受け付け、遅くとも受付翌日には発送する外国雑誌センター館としてのサービス体制を維持している。

<予約点数とILL受付件数（社会科学系）の推移>



評価と課題

予算の減少はとりわけ図書購入に大きな打撃となっている。また外部資金へのシフトは、減少分を補填する意義はあるが、科学研究費等の購入図書は当該教員（または教員集団）の利用が原則となることから、社会科学系図書館を典型とする関連分野の専門図書館室に資料を集中し、共同利用するというこれまでの考え方に大きな影響を与えつつある。

外国雑誌の契約形態を、これまでの冊子体を主とする契約から電子オンリーを主とする契約に変更し、それらの購入経費は全学共通経費分及び部局負担分による「教育研究基盤資料整備費」が主な原資となっている。また、教育研究基盤資料の維持・整備計画の一環として「高額教育研究基盤図書費」を「教育研究基盤資料整備費」の中で措置し、全学的なインフラとしての資料整備を進めている。

運営費交付金の削減と資料費の恒常的な値上げのなか、22年度から始まる次期中期計画における教育研究基盤資料整備のあり方をまとめるに当たって、20年度には、大学院生を含む研究者を対象にアンケート調査を行うなど、素案に反映させるべく基礎資料の収集を開始することとしている。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次の通りである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	1,991	1995 ~	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション 講読規模維持が条件
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	1,302	創刊号 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Wiley 社 InterScience	多分野	H14	561	1996 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Blackwell 社 Synergy	多分野	H14	937	1998 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件 H18 より HSS のみから STM を加えて Full Collection に変更
JSTOR	自然科学 及び社会科学	H14	1,103	創刊号 ~ (最近 3 ~ 5 年 は対象外)	Arts & Sciences (H14 ~ 174 誌) Arts & Sciences I (H17 ~ 190 誌) Arts & Sciences II (19.3 ~ 221 誌) Arts & Sciences IV(H18.3 ~ 154 誌) Health & General Sciences(H15 ~ 35 誌) Science 等が創刊号より利用可能
Nature 社	自然科学	H15	32	1987 ~	Nature 本誌以外は初号から
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去 5 年	
IEEE CSLSP-e	情報通信	H15	23	1988 ~	会議録約 1500 冊も利用可能
ACM Portal	情報通信	H15	31	ほぼ創刊号 ~	会議録等も利用可能
APS	物理系	H16	15	2001 ~	米国物理学会。 *H16 よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16	8	1996 ~	Elsevier 傘下に (ScienceDirect で利用)
LWW via Ovid	医学臨床	H16	100	1996 ~	
ACS	化学系	H16	39	1996 ~	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	182	創刊号 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Cambridge University Press	多分野	H18	197	1999 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件

- ・ その他、無料による提供や冊子体講読により利用できるもの等も加え、19 年度当初の電子ジャーナル利用可能数は、約 12,500 タイトルとなった。
- ・ 総体としては非常によく利用されており、今や必須の教育研究基盤資料となっている。ちなみに、Science Direct の 1 論文当たりの利用単価は 371 円であった。

- 外国雑誌については、19年分から下記のように大幅な方針変更を行った。

附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について . 教育研究基盤資料の維持・整備方策(18年3月9日)」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入する方針が示され、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として重要な電子ジャーナルを含む外国雑誌の維持・整備を図る方向性が定まった。

従って、この答申を受け、2007年から大手出版社の電子ジャーナルの導入については、従来の冊子体を維持する方法から、電子ジャーナルの利用に当たって冊子体を維持する必要がない電子オンリー中心の包括利用の契約方法に大幅に変更した。

具体的には次のようになった。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約への移行

大手5社(Elsevier社、Wiley社、Springer社、Blackwell社、Oxford社)発行のものについては、各社発行電子ジャーナル全タイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約に移行し、その対象となる冊子体の購読はオプションとなり、電子ジャーナルを維持するため購読を維持する必要はなくなった。

なお、冊子体の購読を希望する場合は、購読額の10%~25%程度の特別価格で購読できるが、これに関しては、30%補填は行わない。

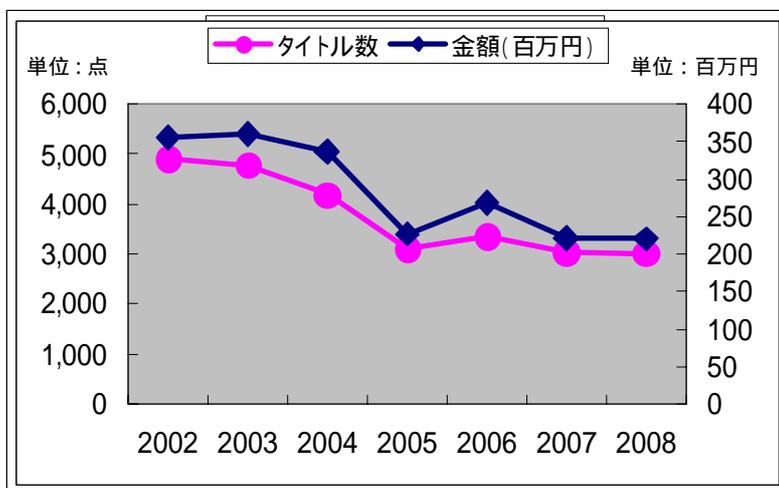
(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、全学経費から、当該雑誌購読所要額の30%を補填する。

- この結果、2007年の外国雑誌は、契約点数・契約金額とも大幅な減少となった。2008年度も2007年度ほどではないが、引き続き、契約点数・契約金額の減少は減少している。

2007年契約点数	3,034点	2008年	3,009点	(0.8%減)
2007年契約金額	約221百万円	2008年	約220百万円	(0.45%減)

< 外国雑誌購読推移 >



< データベースの整備 >

主な導入データベースは次の通りである。

	分野等	導入	範囲	形態	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1996 ~	Web	H15.11 から導入
JCR Web	全分野	H17		Web	H17.4 から新規導入
MathSciNet	数学	H13	1940 ~	Web	
SciFinder Scholar	化学	H16	1840 ~	Web	H16.11 から新規導入
Readers Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983 ~	Web	H18.4 より ERL での提供から Web 版に変更 同時アクセス 1
Business Periodicals Index	経営学	H3	1982 ~	Web	同上 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969 ~	Web	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981 ~	Web	同上 同時アクセス 1
CiNii	多分野	H15	多種	Web	機関別定額制
聞蔵 II ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1945 ~	Web	同時アクセス 3
SwetScan (2007.12 で終了)	全分野 (雑誌記事)	H15	1995 ~	Web	学内サーバからの Web 検索提供
医学中央雑誌	医学	H5	1983 ~	Web	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		Web	H17.6 から新規導入 同時アクセス 5
文字鏡 Web(2008.3 で終了)	漢字データベース	H17		Web	H18.1 から新規導入
官報	官報記事	H18	1947.5 ~	Web	H18.4 から新規導入 同時アクセス 2
日経テレコン 2 1	新聞記事等	H18	1975 ~	Web	H18.7 から新規導入 H19.7 より全学利用可
MAGAZINEPLUS	国内雑誌記事	H18	1945 ~	Web	H18.8 から新規導入 同時アクセス 3
理科年表プレミアム	自然科学	H18	1925 ~	Web	H18.9 から新規導入
J-DreamII	科学技術・医学・薬学	H19		Web	H19.6 から新規導入 同時アクセス 8

- ・ 15 年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE (自然科学系) は、18 年度までは間接経費、19 年度は教育研究基盤資料整備費で契約を維持した。
- ・ 16 年 11 月より、化学分野の基本データベースである SciFinder Scholar を導入した。導入にあたっては関係部局の研究者にアンケート調査を行ったうえ、受益者負担を求めることとした。経費の問題から、「同時アクセス数 1」の契約となっている。
- ・ 18 年度より、日経テレコン 2 1 と MAGAZINEPLUS, 理科年表プレミアム, 官報を新たに導入した。
- ・ 19 年 6 月より科学技術文献情報の文献データベース J-DreamII を新たに導入した。

- ・ 19年12月でSwetScanを、20年3月で文字鏡Webを終了した。
- ・ 各データベースの利用は別添統計の通りである。データベースにより、利用度合は大きく異なっている。

評価と課題

電子ジャーナルは研究者（大学院生を含む）にとって、不可欠な教育研究基盤資料となっている。18年度は全学経費から、当該雑誌購読所要額の30%を補填すること等により大手出版社電子ジャーナルのコンソーシアム契約を維持できることとなった。19年度からは、附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について」教育研究基盤資料の維持・整備方策（平成18年3月9日）により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入し、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として重要な電子ジャーナルを含む外国雑誌及び各種データベース等の維持・整備を図ることが出来た。

（3）蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- ・ 目録遡及入力は学内予算措置を得て4年度から18年度まで3次にわたる5ヵ年計画下で進められてきた。この間国立情報学研究所との共同事業等にも参加し、15年間で約108万冊の遡及入力を達成した。これにより自然科学系、人間科学、医学、保健科学、海事の5館室については館室配置図書の入力がほぼ終わり、全蔵書の約70%がOPACで検索できるようになった。
- ・ 19年度計画と経費
 - 電子図書館事業経費（650万円） 15,000冊
 - 国立情報学研究所共同遡及入力事業（全国的見地から有意義な入力事業を公募し、国立情報学研究所経費で実施するもの）42,000冊
 - 外部委託と館員入力で65,000冊を入力目標とした。
- ・ 19年度入力実績 88,740冊
 - 社会科学系図書館 個人文庫洋書 7,242冊（外部委託）
 - 戦前受入和書 40,000冊（国立情報学研究所経費）
 - 経済経営研究所 書庫内洋書 7,479冊（外部委託）
 - 中南米文庫 2,000冊（国立情報学研究所経費）
 - 各館室 研究室戻り等 32,019冊（館員入力）
- ・ 16年目となる19年度は書庫内に未入力図書が多く残っている社会科学系図書館と経済経営研究所を中心に入力を行った結果、社会科学系図書館では書庫内図書は概ねOPACで検索できるようになり、また経済経営研究所では書庫内洋書の入力がほぼ完了した。
- ・ 19年度末現在の各館室の未入力状況は次の通りである。

	未入力数	主な未入力図書
総合・国際文化学	127,000	旧姫路分館蔵書、露語図書、中国書、漢籍、和古書、研究室備付図書
社会科学系	135,000	和書統計書、中国書、漢籍、洋古書、和古書、研究室備付図書
自然系	117,000	旧兵庫農科大学蔵書、研究室備付図書
人文科学	49,000	中国書、漢籍、和古書、研究室備付図書
人間科学	50,000	旧姫路師範・兵庫師範・明石分校等蔵書、研究室備付図書

医学分館	21,000	研究室備付図書
保健科学	1,000	
海事科学分館	1,000	
経済経営研究所	99,000	書庫内和書、アメリカ文庫、リエゾンセンター、研究室備付図書
合計	600,000	未入力数に製本雑誌は含まれていない

評価と課題

未入力総冊数は約 100 万冊で全蔵書の約 30%にあたる。その中で大きな割合を占めるのが製本雑誌（約 40 万冊）と研究室備付図書（1989 年以前受入）である。資産管理や事務効率化の観点からもこれらの入力計画を検討していかなければならない。また館室配置図書については、今年度の成果により経済経営研究所を除いて主なものは入力を終えたが、業務システムの多言語化対応の遅れによって保留されていた中国書や、入力に専門知識が必要な和・洋古書、漢籍類など重要なものがまだ多数残されている。利用者へのサービス向上、蔵書の利用促進のためにも、経費や時間がこれまで以上にかかる予想されるが、引き続き入力を進めていくための企画・立案及び実行を推進する必要がある。

（４）資料の保存

< 貴重資料の保存 >

- ・ マイクロフィルムの劣化対策として、昨年に引き続き所蔵するマイクロフィルム 337 リール（経済経営研究所図書館 150 リール、海事科学分館 187 リール）の複製を行った。
- ・ 人文科学図書館の和装本 743 冊の燻蒸処理（殺虫・殺卵・殺菌）を実施した。
- ・ 社会科学系図書館の洋書稀覯本 113 冊の修復補修を実施した。

< 一般資料の保存 >

- ・ 昨年度、附属図書館運営委員会において「今後の資料収容力確保の具体策について（案）」が審議・了承され、それに基づき本年度は重複資料調整作業 WG を職員で組織し、特に重複雑誌調整（分担保存を含む）について基本的なデータの整備を行った。

評価と課題

マイクロ資料については、緊急に必要とされる保全措置を行うことが出来た。和装本と洋書稀覯本についても一定の保存処理が出来た。これらについては今後とも継続的に実施することが必要である。

資料収容力確保の具体策について、重複雑誌の保存責任館を決定するためのデータが整備され、今後はタイトルごとの調整作業になり、相当な作業量を伴うこととなるが、具体的に保存責任館を決定することが次年度以降の課題となる。

(5) その他の研究支援サービス

< 相互利用 >

前年度との比較は次のとおりである。

< 18年度との比較 >

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
複写	受付	H19/H18	0.43	0.85	0.79	0.83	0.96	1.04	0.67	1.99	1.35	0.85
		H18年度	279	6,044	2,781	1,012	680	413	2,760	389	388	14,751
		H19年度	120	5,162	2,192	844	656	430	1,849	773	524	12,550
	依頼	H19/H18	1.09	0.67	0.73	1.03	1.14	-	0.89	0.97	0.99	0.91
		H18年度	628	1,336	2,097	1,197	1,611	0	2,042	1,772	165	10,848
		H19年度	683	895	1,521	1,231	1,844	2	1,797	1,713	164	9,850
貸借	受付	H19/H18	0.34	0.73	0.84	0.87	0.88	1.35	2.00	1.47	1.30	0.76
		H18年度	298	1,983	231	511	227	26	7	15	97	3,395
		H19年度	100	1,446	195	445	199	35	14	22	126	2,582
	依頼	H19/H18	0.91	0.63	1.35	0.92	0.93	0.50	2.25	2.21	0.77	0.88
		H18年度	300	645	128	912	426	6	8	24	13	2,462
		H19年度	273	404	173	842	398	3	18	53	10	2,174

- ・文献複写及び現物貸借の受付、依頼ともに、対前年度比で減少が見られた。
- ・取扱件数の多い、社会科学系図書館、自然科学系図書館、医学分館各館における減少が、全体の減少結果に強く影響している。

評価と課題

電子ジャーナルの利用・普及等に伴い文献複写が減少傾向にあるとはいえ、受付、依頼ともに1万前後の件数を示しており、利用者ニーズを満たす上で、他大学との協力関係はなお引き続き重要である。

15年10月6日に締結した大学間協定に基づき、19年12月19日、韓国海洋大学校図書館と図書館間協力協定を結んだ。これを機に、20年1月10日、日韓ILLに参加し海事科学分館、社会科学系図書館、自然科学系図書館、医学分館を登録した。

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス

< 一般市民の図書館利用 >

- ・ 17年度に附属図書館利用細則を改定し、総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを開始している。
- ・ 18年度と比べ、総合・国際文化学図書館では約60%の減少が生じた。これは耐震改修工事に伴う利用の一部制限や休館等の事情が強く反映しているものと思われる。

	総合・国際	海事分館
H18年度	311	385
H19年度	119	361

< 展示会 常設展を2回開催 >

・ 第1回常設展



- ・ 2007年9月20日(木)～
12月21日(金)
- ・ 近代神戸の源流を訪ねて
- 開港と居留地 -

・ 第2回常設展



- ・ 2008年2月15日(金)～
6月20日(金)
- ・ 近代神戸の源流を訪ねて
- 鈴木商店とマッチ産業の盛衰 -

- ・ 神戸開港140年を意識した展示会テーマとした。
- ・ 新設された常設展示コーナー(社会科学系図書館2階)を会場として、初めての試みとなる常設展方式の展示会を2回開催した。
- ・ 学内各部局、近畿地区各大学、及び近隣の生涯学習施設(図書館等)へチラシ、ポスターを送付して広報した。また、第1回、第2回とも神戸新聞に紹介記事が掲載された。
- ・ 図書館ホームページには展示品目録等を公開している。

< 公共図書館との協力 >

- ・前年に引き続き、兵庫県大学図書館協議会で加盟館の一般市民への公開状況をまとめ、同協議会ホームページ上で情報を公開するとともに、兵庫県図書館協会への情報提供を行った。

評価と課題

19年度の展示会は、初めての試みとして3～4ヶ月の会期の常設展を2回開催した。展示資料数は各回20点程度の小規模な展示会であるが、マスコミの報道もあり近隣住民等の一般市民、及び学内構成員など前年並みの来場者があった。なお、第1回常設展は9月29日(土)に実施された第2回神戸大学ホームカミングデイに企画参加した。展示会の企画・立案は多くの労力を必要とするため、職員のスキルアップを図りながらより効率的な展示会運営を進めることが課題である。

また、地域社会との連携強化及び大学図書館の公開をより一層推進するために、公共図書館との相互協力協定の締結並びに一般市民への資料貸出サービスの拡充など、早急に検討する必要がある。

(2) 震災文庫

< 資料収集と一般公開 >

- ・引き続き、様々なチャンネルから情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動により関連資料の網羅的収集に努めた。今年度は1,126点(18年度は1,295点)収集し、資料所蔵総数は4万3千件を超えた。

	全点数 (タイトル数)	H19 新着		全点数 (タイトル数)	H19 新着
図書資料	6,294 (5,568)	247 (207)	地図資料	132 (126)	0 (0)
雑誌資料	12,180 (3,014)	357 (35)	動画資料	248 (205)	5 (5)
新聞・広報誌資料	12,810 (2,290)	258 (42)	音声資料	83 (68)	0 (0)
パンフレット資料	5,294 (5,247)	112 (110)	コンピュータ資料	80 (79)	2 (1)
一枚もの資料	5,852 (5,852)	145 (145)	www	7 (1)	0 (0)
写真資料	86 (84)	0 (0)	総合計	43,066 (22534)	1126 (545)

注) 雑誌等の各号を1冊ずつ数えた数が「点」(件)、同一タイトルを1と数えたのが「タイトル」。

写真資料はコレクション単位(概ね撮影者単位)を1としているため、点数が少ないが、写真2万枚強のコレクションも含まれている。

< 震災デジタルアーカイブ >

- ・資料全体のタイトル等だけでなく、掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なメタデータを継続的に作成している。本年度は、約1万件を入力し、その結果、メタデータベースのレコード総数は24万件を越えた。
- ・震災関係図書資料について、著作権許諾の得られた15冊(前年11冊)をデジタル化し公開した。
- ・チラシ等一枚もの資料のうち著作権許諾の得られた71点(前年39点)をデジタル化し公開した。
- ・各機関から、防災資料作成等のための一次資料使用問い合わせが、写真を中心に30件程あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。

< 講演 >

- ・新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野主催『シンポジウム 震災資料の保存と活用—文書館・図書館・博物館—』(2007.12.8)において講演「神戸大学附属図書館「震災文庫」の取り組み」を行った(職員2名)。

評価と課題

震災文庫が特色ある図書館事業として評価を得ていることは、震災文庫トップページのアクセス件数や講演依頼があることから分かる。その一方、震災後10年以上経過した現在、文庫設立当初の目的である震災の記録としての資料の収集点数は減少傾向にあり、資料収集の方向性を再検討する時期にきている。

15年10月の新館への移転以降、震災文庫室は利用者の来室時のみ職員が開室するという体制で運用されていたが、20年度から常駐人員1名を置くこととした。

資料の電子化に関する著作権許諾申請および、震災デジタルアーカイブの一次資料使用問い合わせに対する著作権者への許諾仲介(今年度約30件)を行っているが、著作権者により条件の違いがあることや、連絡方法が多岐にわたることから煩雑な作業となっている。また団体・組織の再編、解散によって年々連絡が取り辛くなっているのが現状である。

より多くの震災関係資料を、より広く有効活用を図るためには、本学のみならず、地域関連機関との連携を強化し、一体として資料提供できる仕組みを構築する必要がある。

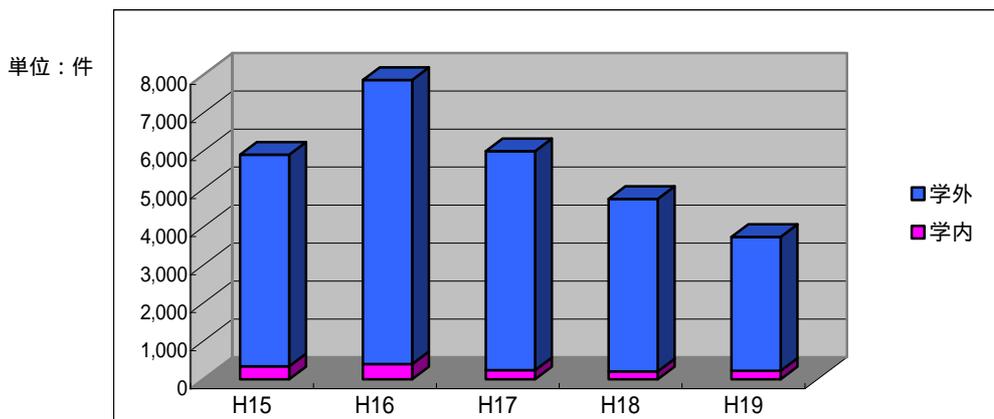
(3) 電子図書館システムによる情報発信

コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べた。

< 「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築 >

- ・同システムは10年度補正予算で予算措置され、11年から稼働している。全国5大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として継続的に予算措置されているものである。
- ・「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内教育・研究成果」を3本柱に事業を推進し、デジタル化した資料をWeb上で公開してきた。経費には上記の電子図書館経費と、科学研究費研究成果公開促進費(H11~15 震災デジタルアーカイブに措置、H16~ 新聞記事文庫に措置)を充ててきた。
- ・15年2月に更新した電子図書館システムは、20年2月に再度契約が更新された。OPACも含む横断検索機能が追加され、またデータベース管理インターフェースが改善された。スケールメリットによるシステムの改善等を図るため、23年1月更新予定の図書館業務システムに更新時期を合わせて、通常5年契約を3年で契約を行った。

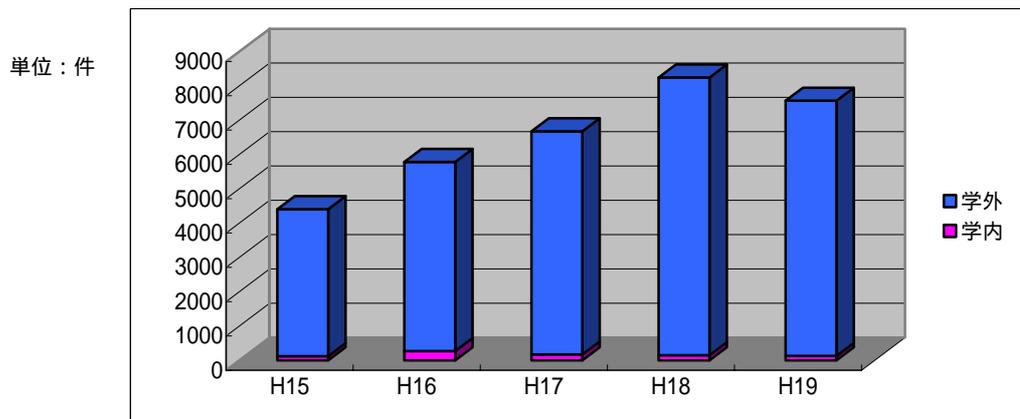
<震災文庫トップページ月平均アクセス数推移>



<経済関係資料デジタル化>

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、昨年につき科学研究費研究成果公開促進費（「戦前期新聞記事文庫データベース」）を獲得した（補助費 1540 万円）。「商業」「人口および植民」分野など約 39,000 記事を全文テキスト化した（累積約 200,000 記事）。

<新聞記事文庫トップページ月平均アクセス数推移>



<住田文庫、神戸開港文書のデジタル化>

- ・ 住田文庫から「英式運用全書」ほか計 17 点をデジタル化し公開した。
- ・ 神戸開港文書のうち 361 点について、解題情報のテキスト化と文書の画像データ化を行った。

<学内教育・研究成果資料デジタル化>

- ・ 機関リポジトリが公開 2 年目を迎えた。20 年 3 月末現在、7209 件（前年度末 2,500 件）の学術成果を一般公開している。
- ・ キク科の染色体数データベース（理学部 渡邊邦秋教授が運営していた DB）を図書館のサーバーに移植し公開した。データはその後更新を続けている。
- ・ 引き続き学内研究成果メタデータ（書誌情報）として、紀要類記事情報（1,496 件入力、累積 31,975 件） 科学研究費成果報告情報（170 件入力、累積 2,020 件） 博士学位論文情報（2,649 件入力、累積 6,837 件）の入力を進めた。

評価と課題

新聞記事はその規模の大きさと希少性（戦前の記事切抜きはほとんど残っていない）から高い評価を得ており、主に外部からの利用が多数を占める（H19年度トップページアクセス数 94,432 件中 92,940 件（約 98%）が学外からのアクセスである）。今年度も、科学研究費研究成果公開促進費の獲得により計画どおりに進めることができた。

機関リポジトリについては博士論文の電子化に力を入れた。引き続き学内研究者の学術成果の収集と公開を行うとともに、事業を今後安定して遂行していくための業務ワークフローと労力配分を見極める必要がある。また、国立情報学研究所による委託事業について来年以降の継続の保証がないことから、電子図書館事業費での予算措置を行うこととした。（20年度 300万円）

（４）機関リポジトリによる情報発信

< コンテンツ収集活動 >

- 18年度に稼動を始めた神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）は、比較的順調に成長を続け、19年度末現在のコンテンツ数は 7,200 件を越え、1年間で約 4,700 件増加した。種別内訳は下表のとおりである。

一般雑誌記事	15	図書	9	会議発表論文	11
データベース	1	紀要論文	6,567	学術雑誌論文	444
研究報告書	9	テクニカルレポート	1	博士学位論文	152
合計					7,209

- 紀要論文が多数に上るが、およそ半数は5月から公開を開始した『国民経済雑誌』掲載論文である。戦後（1946-2002）の刊行分について著者の許諾を得られた論文の公開を進めた。
- 学術雑誌論文については、Web of Science 等の文献情報データベースから得た神戸大学研究者の論文情報をもとに提供依頼を継続して行った。また、昨年度、神戸大学大学情報データベース（KUID）との連携が実現し、KUID から得られる業績情報に基づいて依頼を行った。
- 神戸大学固有の研究業績として、博士学位論文に注目し、収集活動を本格化させた。神戸大学の博士号を持つ学内外の研究者を調査し、提供依頼を行った。また、博士学位論文公開を支援する目的で、論文内容及び論文審査結果の要旨集の電子化にも着手し、過去5年分を公開した。

< システム更新など >

- 20年2月に電子図書館システムの更新を行い、それに伴い機関リポジトリシステムを電子図書館システムの中に位置づけた。
- KUID との連携システムが完成し、研究者紹介画面の業績情報から Kernel に収録された本文へのリンクと Kernel メタデータ画面から研究者紹介画面へのリンクの双方向リンクが行えるようになった。
- 世界の機関リポジトリ統合検索サイトである OAIster からのハーベストを開始した。

< 広報活動 >

- 学内教員への浸透を図るため、前年度から開始している『Kernel 通信』第2号を発行した。
- 博士学位論文の系統的、組織的収集を目指し、各研究科長を訪問し協力依頼を行った。
- 学術成果リポジトリ推進ワーキンググループを組織し、Kernel の知名度向上のための Kernel 概

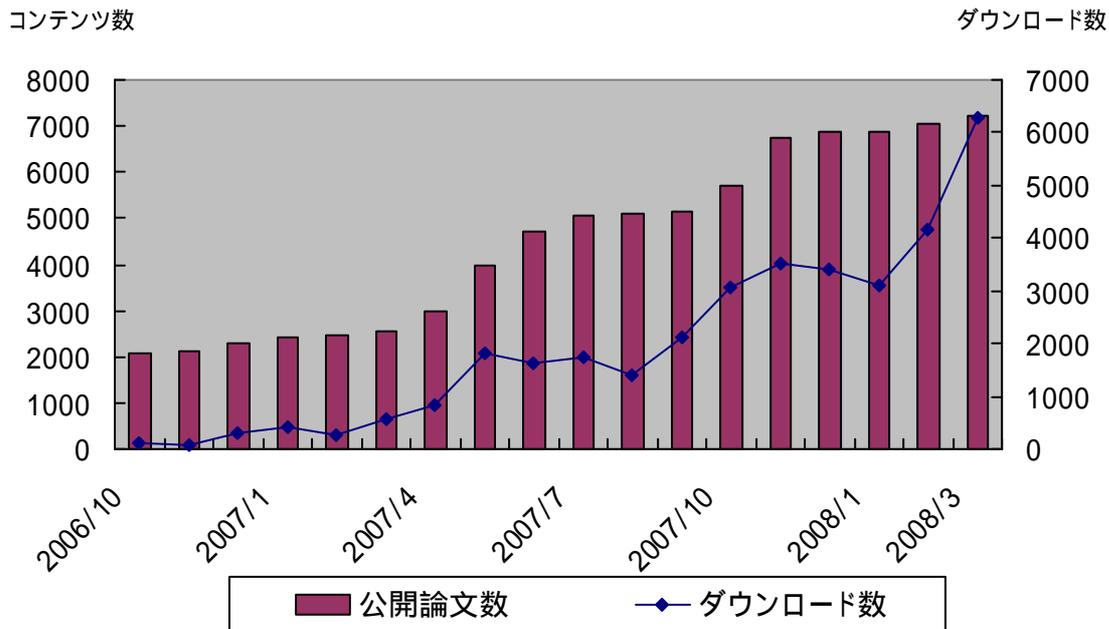
要リーフレット及び広報グッズ（クリアファイル、ボールペン、付箋紙）を制作・配布するなど広報を中心とした活動を行った。

< CSI 事業 >

- ・ 国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業（CSI 事業）」により、550 万円の委託事業費を得た。
- ・ CSI 事業は、領域 1「機関リポジトリの構築と運用」では、神戸大学大学情報データベース（KUID）との連携システムを開発し、神戸大学としての研究業績発信機能の強化を行った。
- ・ 領域 2 では、筑波大学、千葉大学と連携して、学協会の「著作権ポリシー共有機能」の実現を目指し、学協会の著作権ポリシーについて引き続き調査を進めた。

評価と課題

コンテンツ数が比較的順調に増加し、それに伴って、論文のダウンロード数も増加している。下のグラフはコンテンツ数と論文ダウンロード回数の推移を示している。2008 年 1 月はシステム更新のため少し落ち込んでいるが、2007 年 10 月以降はコンスタントに毎月 3,000 件以上ダウンロードされ、3 月には 6,000 件と倍増している。



今後の課題としては、重要コンテンツである博士学位論文の収集が安定的・組織的に行えるような体制の整備が欠かせない。そのためには、各研究科の協力が必須であり、一層の理解を得られるよう広報活動に力を入れる必要がある。

(5) 国際連携

< 韓国海洋大学校図書館と協力協定締結 >

- ・ 19年12月19日、神戸大学附属図書館に韓国海洋大学校図書館（釜山）の Lee, Han-Seok 館長ほか4名の図書館関係者を迎え、協定書の調印式を行った。
- ・ 協定内容は、図書館の相互利用、大学の学術出版物及び重複資料の交換、図書館職員の交流に加えて、相互の図書館サービスに関する情報交換や共同研究など、より高度で、かつ国際的レベルの図書館機能を共に実現するため協力することとしている。
- ・ 協定締結に係る事前打ち合わせのため、同月に職員2名が韓国海洋大学校図書館を訪問した。

評価と課題

大学間ではすでに多くの国際協力協定が締結されているが、図書館間の協定は本学にとっては初めての経験であり、国際化の進展のためには非常に有意義であると言える。協定が実りある結果をもたらすためには職員の意識改革と努力が欠かせず、真の国際化が進められるかどうか、ここ数年の活動が試金石となるものと思われる。

5 . 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

< 管理運営全般 >

19 年 3 月末に任期満了により須藤健一館長（国際文化学研究科教授）が退任し、4 月より部局長経験者である武田廣新館長（理学研究科教授）が就任した。館長の交替に伴い、副館長 3 名が交替した。4 月 26 日に館長・副館長懇談会が開催され、図書館の現状と課題全般の確認と新たな役割分担が決められた。新任の副館長及び役割分担は以下のとおりである。

出井文男副館長（経営学研究科教授） 社会科学系図書館担当 広報担当
塩谷茂明副館長（自然科学系先端融合研究環教授）自然科学系図書館担当
国際交流担当

三上剛史副館長（国際文化学研究科教授） 評価担当

< 館内諸会議 >

附属図書館運営委員会

- ・ 19 年度は 4 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 19 年度は、附属図書館長・副館長懇談会を含め 3 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館評価委員会

- ・ 19 年度はメール会議を含め 2 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館研究開発室会議

- ・ 19 年度はメール会議を含め 2 回開催した。開催日時、室員名簿、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

全学図書系係長会議

- ・ 19 年度は 6 回開催した。附属図書館事務部課長、補佐、係長及び経済経営研究所図書係長がメンバーで、全学図書館業務に係る実務的な会議である。
- ・ 開催日時、議題等一覧は、巻末添付資料に掲載。
- ・ 19 年度からは、報告事項を出来る限り少なくし、審議事項を中心に積極的に意見交換し、結論を得るよう努力した。

< 図書館審議会答申の具体化 >

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、19 年度は全学経費として所要額 2.8 億円の財源を確保し、約 8,900 誌の電子ジャーナルと 42 種のデータベースを全学に提供している。また、共同利用を前提として外国雑誌購読について、購読額の 3 割をこの経費から補填した。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書（1 セット 10 万円から 500 万円まで）を整備した（13 点 2 千万円）。

評価と課題

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」(18年3月)により、19年度から21年度については、全学共通経費1.5億円及び部局拠出1.5億円の合計3億円を上限とし、電子ジャーナル及びデータベースの提供維持、30%の外国雑誌購読経費補填、高額教育研究基盤図書の本整備を実施することとされているが、22年度からの次期中期計画における新たな中長期的な維持・整備方策については、20年度に検討することとしている。

(2) 事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- ・ 19年5月現在、附属図書館事務部は2課19係、定員50名、非常勤職員39名、経済経営研究所図書係、定員3名、非常勤職員1名の93名となっている。
- ・ 19年5月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7係	20	20	40
	自然科学系図書館	サービス課補佐 3係	8	4	12
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
	経済経営研究所図書館	1係	3	1	4
	楠地区	医学分館	管理課補佐 2係	5	3
名谷地区	保健科学図書室	1係	1	2	3
深江地区	海事科学分館	管理課補佐 2係	5	2	7
			53	40	93

- ・ 現在、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・目録情報係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 情報サービス課の情報リテラシー係(総合・国際文化学図書館配置)、電子図書館係(社会科学系図書館配置)、情報システム係(自然科学系図書館配置)は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 情報管理係は、自然科学系図書館・医学分館・海事科学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

<職員の採用と育成>

- ・ 19年度末に、図書系職員2名の定年退職があったが、業務改善プロジェクト報告書から導かれる人員削減計画(21年までに3名の削減)の実施により、19年度末に1名を削減した。従って、20年度の補充は1名のみとなる予定である。
- ・ 16・17年度に実施した「図書系職員初任者等研修」は、新任職員の配置が無かったため19年度は実施しなかった。20年度は1名新規採用を見込んでおり、実施する予定である。
- ・ 16年度から引き続いて、事務系職員の「身上調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施し

ている。19年度から様式を大幅に変更し、従来からある職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析や業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、研修計画等に反映した。

- ・ 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。今年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	大学図書館職員短期研修	国立情報学研究所、京都大学	10/16～19	係員 2
	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	12/18～20	係員 1
中堅(係長クラス)向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学、文部科学省	7/2～13	係員 1
個別業務の専門的知識のための研修	目録システム講習会[図書コース]	国立情報学研究所、神戸大学	9/12～14	非常勤 3
	NAIST 電子図書館学講座	奈良先端科学技術大学院大学	11/1～2	係員 1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	国立情報学研究所	10/10～12	係員 1
	漢籍担当職員講習会(中級)	京都大学	11/5-9	係員 1
	DRF 国際会議	国立情報学研究所	1/30-31	補佐 1 係長 1 係員 4
	西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	11/6～9	係員 1
	職員自己啓発研修(放送大学科目等履修生として「ドイツ語入門」等を自学)	神戸大学	-----	補佐 1 係長 1 係員 2
1日以内の講演会・研修会等	各種講演会等 「司書職員スキルアップセミナー」 「阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」 「シンポジウム「図書館利用者を知る」」ほか	兵庫県大学図書館協議会、近畿地区国公立大学図書館協議会、京都大学、ほか (主に近畿地区で開催されるもの)	各半日～1日	管理職を含め 延べ 40

- ・ 図書館専門業務以外の大学職員としての一般的な学内研修(OA研修、管理職研修等)も、可能な限り派遣したが、国際化への意識啓発及び国際業務対応能力養成として以下の研修等に職員を派遣した。

区分	研修名	主催	日程	参加者
国際業務・海外調査	平成19年度神戸大学事務職員国際業務研修(国際業務専門員養成)	神戸大学	7/27～10/5 間の10回	係員 1
	平成19年度神戸大学事務職員国際業務研修(国際業務専門職員養成)	神戸大学	7/27～10/5 間の10回	係員 1
	FDに関する北米調査団参加(ワシントン大学、イエール大学、ピッツバーグ大学、プリティッシュコロンビア大学)	神戸大学	10/1-6	係員 1

- ・ 職員間の情報の共有化を図る一手段として、各種会議や研修等に出席した場合、その報告内容を簡潔にまとめ、全職員に報告することとした。

評価と課題

学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題（漢籍・古典籍等）に関わる研修及び国際業務対応能力を養成する研修に職員を派遣して自発的能力向上のための機会を増やした。また、神戸大学のFDに関する北米調査団に職員を派遣し、教員や授業への図書館の関わりについての調査を行った。

新任・転任の職員を対象とした「初任者等研修」を今年度は未実施であるが、平成20年度以降計画的に実施する予定である。

<業務の改善と効率化・合理化>

業務の標準化・合理化

- ・ 本学の附属図書館は、4キャンパス9館室に分散し、部局密着型の図書館として機能してきたという歴史的な背景もあり、業務の面において館室毎に独自の処理や手順が多く残っている。このため、業務の効率化・合理化を進めるには、まず業務の標準化が重要となっている。19年度は以下のことを実施した。

各種手続きの統一等図書館サービス業務の標準化・簡素化に向けてWGを設置し検討を進めた。

図書分類の標準化について検討のためのWGを設置し調査検討を行い、標準モデルを提示した。

アウトソーシング

これまで清掃・警備等の一般的業務のほか、雑誌製本業務、一部館室の時間外開館業務、目録遡及入力、電子化コンテンツの作成を外部委託してきた。19年度から、以下に記す業務について、既定経費化され実施している。

- ・ 整理部門業務の軽減方策として、業者による装備作業済・目録データ添付図書の購入を前年度に引き続いて実施した。（8頁参照）
- ・ 雑誌製本業務について、準備作業、データ作成及び装備等を加えた仕様により前年度に引き続き外部委託を実施した。

業務改善の検討

- ・ 「神戸大学業務改善プロジェクト報告書」（18年7月）を受け、図書館において業務改善により削減可能な時間数は最終的に8,373時間（定員内5,613時間、非常勤2,760時間）となった。これにより、18年度末定員1名、19年度末定員1名、非常勤1名、21年度末定員1名の合計定員3名、非常勤1名の削減計画を立て、19年度末までに定員2名、非常勤1名の削減を実施した。
- ・ 18年度に発足した業務改善推進プロジェクトが6月と11月の2回開催され、図書館からは情報管理課長がメンバーとして出席し、業務改善策の進捗状況について報告した。
- ・ 引き続き検討しなければならない図書館の業務改善策の内容は下記のとおりである。
 1. 複写経費一元化（部局単位もしくは大学全体）（削減効果350時間 H.20.4までに実施）
 2. 文献複写経費一元化（部局単位もしくは大学全体）（削減効果260時間 H.20.4までに実施）
 3. 取引業者の絞込み及び、図書館業務システムとのデータ連携（削減効果640時間 H.21.4までに実施）
 4. 書店発注システムの活用（削減効果1,500時間 H.21.4までに実施）
 5. 情報システム運用管理・保守管理業務のアウトソース（図書館システム）（削減効果800時間 H.21.4までに実施）
 6. 外部資金で購入する図書の購入方法の見直し（削減効果不明 H.21.4までに実施）
 7. 図書予算の大括り化（削減効果900時間 H.21.4までに実施）
 8. 予算確認・調整業務の廃止（削減効果600時間 H.23.4までに実施）
 9. 図書予算配分方法の見直し（削減効果不明 実施時期未定）この対応策については、予算編成方

針にも関わる大きな問題であり、現時点では実現性に乏しいと思われるので、当面は実施しないこととしたいとしている。

(3) 予算及び財務会計業務

<平成19年度附属図書館予算・決算>

経常運営費

- ・ 19年度当初予算 183,644 千円 決算額 181,670 千円であった。
- ・ 18年度の当初予算 188,219 千円千円、決算 181,066 千円に比較して、当初予算について大幅に節減した。(当初予算額 H18 予算比 4,575 千円 2.4%減、H18 決算比 604 千円 0.3%増)

経常事業費

- ・ 19年度当初予算 241,679 千円 決算額 243,791 千円であった。
- ・ 18年度の当初予算 235,579 千円、決算 241,740 千円に比較して、当初予算、決算額とも大幅な増額となった。(当初予算額 H18 予算比 6,100 千円 2.6%増、H18 決算比 2,051 千円 0.8%増)
- ・ 19年度は、既定予算として学生用資料費の予算枠を維持した。(63,000 千円 63,000 千円)

19年度臨時的経費

- ・ 教育研究基盤資料整備費により、外国雑誌を含む電子ジャーナル、データベース及び高額教育研究基盤図書の維持及び整備を実施した。(280,000 千円(全学経費 1.5 億円 + 部局拠出分 1.3 億円))
- ・ 建物改修に伴う総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館の移動や移転のための経費と同 2 館に人間科学図書館を加えて配分された設備整備のための経費については、総額で 12,348 千円の不足が生じた。
- ・ 収入確保インセンティブ経費及び館内複写料金等利用者負担金により、建物改修に伴う 3 館の設備費の不足を補填した。

その他の経費

- ・ 電子図書館事業に関連して新聞記事文庫コンテンツ作成のため、科学研究費補助金 15,400 千円を獲得
- ・ 神戸大学学術成果リポジトリの推進のため、国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(CSI事業)」委託事業費 5,500 千円を獲得
- ・ 図書目録遡及入力を推進するために、国立情報学研究所の大規模遡及入力委託事業費 2,799 千円を獲得
- ・ 図書館ホームページの改訂のために、教育研究活性化経費(間接経費)84 千円を獲得
 - 19年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

評価と課題

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、19年度予算については、教育研究基盤資料整備費として所要額 2.8 億円の財源を確保し、約 8,900 誌の電子ジャーナルと 42 種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット 10 万円から 500 万円まで)を整備した(13 点 2 千万円)。また、学生用資料費は昨年度と同額の 63,000 千円を確保している。部局からの補助を含めると、学生一人当たり一冊以上の図書の購入が実現できている。

19年度も、18年度と同様に労働安全衛生の観点からの施設補修、設備改修、書架・什器転倒防止等

の整備を実施した。予算的には、19年度は部局長裁量経費が配分されなかったため、経常運営費の枠内ですできるだけ整備を行った。しかしなお、19年度に改善できなかった点が残っており、今後の整備が課題である。

< 図書資産の管理 >

図書資産の点検

19年度は下記の図書館の点検を授業休業期間等を実施した。

(作業館室等) 社会科学系図書館、海事科学分館で、合わせて 445,702 冊。

なお、19年度については、不用資料の除却を実施した。(28,530 点、資産価格 9,262,377 円)

評価と課題

資産の効率的運用を図るために昨年度に引き続き、図書資産の点検を社会科学系図書館及び海事科学分館において実施した。

教育研究活動に応じた効率的なスペース配分など全学的方針の確立を図るため、附属図書館収容力確保の方針について、18年度第2回図書館運営委員会(18年10月24日開催)で審議し、全体的な調整を図りながら、各館室において保存基準を策定し、整理して行くことになった。第1段階として、各館で重複する図書の整理、第2段階として、学内他館と重複する雑誌の調整した上での整理、に取りかかることになった。この方針に基づいて、不用資料の除却を実施した。

(4) 施設整備・システム整備

< 図書館施設の現況 >

- 19年度の図書館施設整備状況について、全9館室の概況をまとめた。各館室別データは、巻末基本統計の通りである。

	H18年度末	H19年度末	分析指標
施設総面積	25,839 m ²	26,234 m ²	学生あたり面積 1.46 m ² 1.53 m ²
図書収容力	3,041,460 冊	3,079,800 冊	蔵書数に対する収容可能率 87.1% 87.4 %
閲覧座席数	1,726 席	1,692 席	学生数に対する座席率 9.7% 9.8 %

【参考：Aクラスの国立大学(8学部以上の17大学)の平均値 平成18年度学術情報基盤実態調査結果報告より】

施設総面積 27,744 m² 学生あたり面積 1.72 m²
 書架収容力 2,657,801 冊 蔵書数に対して 90.4%の収容力
 閲覧座席数 1,830 席 学生数に対して 11.3%の座席率

- 19年度は、人文科学図書館の集密書架を増設した。

< 各館室の施設整備 >

- 19年度に実施された耐震改修工事に伴う以下の整備を進めた。
 総合・国際文化学図書館：グループ学習室の増設、閲覧机・椅子・書架の更新
 人文科学図書館：ハンドル式集密書架・カウンター・検索端末台・閲覧机・椅子・書架・調湿キャビネット・放送設備の更新、検索用端末機・書庫内除湿機の増設、書架組替等による収容力の強化

人間科学図書館：グループ学習室の新設、カウンター・端末机・閲覧机・椅子・書架・放送設備の更新

なお、耐震改修工事の遅れによって、総合・国際文化学図書館の電動式集密書架・放送設備は20年度に整備を行うこととなった。

- 耐震改修工事に伴うもの以外について以下の整備を進めた。

総合・国際文化学図書館：ラベルプリンターの更新

社会科学系図書館：マイクロキャビネットの増設、経済産業省近代化産業遺産用展示ケースの設置、液晶プロジェクタの更新

自然科学系図書館：閲覧机・座席を増設、液晶プロジェクタの更新

人文科学図書館：ラベルプリンターの更新

人間科学図書館：ラベルプリンターの更新

医学分館：ラベルプリンターの更新

保健科学図書室：木枠付スチール書架の更新、ラベルプリンターの更新

海事科学分館：利用者用ロビーチェアの設置、ラベルプリンターの更新

<安全点検>

- 労働安全衛生法に基づく衛生管理者を置き、毎週点検を実施した。
- 19年度の労働安全衛生に関連する改善事項を記す。

総合・国際文化学図書館	書架等転倒防止及び什器固定
社会科学系図書館	誘導標識更新等消防設備改修 渡り廊下電気錠取付 遊及入力室換気扇更新 不要湯沸器撤去 移動棚既存レール一部カット 什器固定
自然科学系図書館	消火栓ホース更新等消防設備改修 入口土間タイル等補修
人間科学図書館	書架等転倒防止及び什器固定
保健科学図書室	書架等転倒防止

評価と課題

図書収容の限界に達していた人文科学図書館において、地下にハンドル式集密書架を設置するために、床補強整備の営繕費及び建物新営設備費増額が予算措置され、収容力の大幅な改善が実現した。

社会科学系図書館本館（昭和8年竣工）の大閲覧室の空調機設置及び照明器具の更新について、引き続き学内予算を要求している。

総合・国際文化学図書館、人文科学図書館及び人間科学図書館の3館の耐震改修工事が行われ、総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館については全面的な、人間科学図書館については一部の配置の見直しを行った。合わせてグループ学習室の整備、書架・閲覧机・椅子等の増設・更新を実施した。なお、工事完了が20年度にずれこんだため、図書・物品の移動や電動集密書架の新設等20年度になってから実施したのものもあり、4月に予定していた新装開館が大幅に遅れた。

< システム整備 >

- ・ 電子図書館システムのリプレースにより、同システムのサーバ機器、入力用端末、利用者用端末の更新を行った。
- ・ 総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館で実施された改修工事に伴い、ネットワーク配線の再設計を行い、各部屋の壁面に情報コンセントを設置した。

評価と課題

電子図書館システムの機器の更新により、各サーバ及び端末機器の性能が向上し、また、利用者用端末においては統合情報基盤計算機システムの教育用端末と OS 及びアプリケーションを全学的レベルに統一することができた。

3館における情報コンセントの設置により、今後の配線切り替えが容易となり、また、事務室、閲覧室等の配線を整理することができた。

23年1月の図書館業務システム及び電子図書館システムの更新に向け、財務会計システムや教務システム等の学内他システムと連携したシステム構築を検討していくこと、また、20年度中に書店発注システムを導入し、財務会計システムによる図書の支払い処理を実現することが課題である。

(5) 図書館界での諸活動

< 国立大学図書館協会 >

- ・ 総会において、引き続いて監事館に選出され、協会活動の監査業務を行うとともに、理事会に出席した。
- ・ 「学術情報委員会」(事務部長)に委員を派遣した。

< 兵庫県大学図書館協議会 >

- ・ 18年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 加えて、研修事業においては研修担当館がスムーズに事業を運営できるように事務局としてサポートしている。
 - ・ 講演会「絵本の扉をひらく 子ども文庫から、ブリティッシュ・ライブラリーまで」
 - ・ 研究会「目録業務の将来と大学図書館」
 - ・ 施設見学「大手前大学西宮図書館 メディアライブラリーCELL」
- ・ 県の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っている。
- ・ 19年度の活動成果として、各加盟館における「図書館広報活動」の状況を把握することにより、大学図書館における広報活動の在り方を考える上でも貴重な情報共有ができた。
- ・ 全国図書館大会兵庫大会準備委員会に委員を派遣した(附属図書館長)。
- ・ 全国図書館大会兵庫大会分科会検討委員会に委員を派遣した
(情報サービス課補佐【自然科学系図書館】)。

< その他 >

- ・ 日本医学図書館協会雑誌委員会の委員を務めた(情報管理課補佐【医学分館】)。
- ・ 日本医学図書館協会医学図書館研究会・継続教育コース実行委員会の委員を務めた
(情報管理課補佐【医学分館】)。

- ・ 日本医学図書館協会近畿地区会シンポジウム実行委員会の委員を務めた
(情報管理課補佐【医学分館】)。
- ・ 日本医学図書館協会近畿地区会シンポジウムに講師を派遣した(医学情報サービス係員)。
- ・ 近畿イニシア能力開発専門委員会の委員を務めた(情報管理課補佐【海事科学分館】)。
- ・ DRF 国際シンポジウム地域組織委員会の委員を務めた(情報管理課補佐【海事科学分館】)。

評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動は、図書館の管理・運営に関して、連絡・協議・調査研究を行い、会員間でのより緊密な連携と協力を図ることによって、図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進させることへのメリットが大きい。

しかしながら、昨今、図書館スタッフが正規職員から派遣職員等へと変遷している加盟館も増加して来ている。各図書館によって施設規模、職員数、予算等の違いはあるが、図書館の将来を考えれば、より一層の海外研修等を含めた新たな人材育成や地域社会との連携強化等の検討が必要がある。

附属図書館蔵書・受入等の現況(平成19年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	494,021	1,244,649	472,496	277,529	313,980	271,012	137,657	58,194	255,146	3,524,684		
	和洋区分	和漢書	349,691	581,313	248,702	172,931	242,461	117,054	53,604	50,295	196,778	2,012,829	
		洋書	144,330	663,336	223,794	104,598	71,519	153,958	84,053	7,899	58,368	1,511,855	
	目録状況	目録入力対象	430,000	874,000	295,000	237,000	233,000	206,000	54,000	47,000	199,000	2,575,000	
		入力済	303,000	739,000	178,000	188,000	183,000	107,000	33,000	46,000	198,000	1,975,000	
		未入力	127,000	135,000	117,000	49,000	50,000	99,000	21,000	1,000	1,000	600,000	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)	2,312	8,184	4,992	3,924	2,269	4,046	2,096	574	4,933	33,330		
和洋区分	国内雑誌	1,419	2,133	2,297	2,812	1,554	1,924	697	428	3,456	16,720		
	外国雑誌	893	6,051	2,695	1,112	715	2,122	1,399	146	1,477	16,610		
図書受入	受入図書数 (冊)	5,175	3,912	25,393	8,609	4,425	4,222	2,307	2,538	2,588	3,782	62,951	
	和洋区分	和漢書	5,126	2,819	15,396	4,407	3,373	3,379	1,563	1,905	2,323	3,245	43,536
		洋書	49	1,093	9,997	4,202	1,052	843	744	633	265	537	19,415
	取得手段	購入(一般財源)	5,096	2,568	10,403	3,141	1,436	3,007	923	674	1,502	1,811	30,561
		補助金による購入	58	1,016	5,672	1,712	2,339	929	458	884	431	172	13,671
		一般寄贈	0	212	5,188	982	165	52	360	323	362	1,443	9,087
		製本編入	21	116	4,130	2,774	485	234	566	657	293	356	9,632
	取得目的	学生用図書	4,564	594	4,217	2,885	566	1,250	89	1,157	1,634	2,558	19,514
		図書館備付	464	838	13,335	1,378	789	629	1,321	709	293	399	20,155
		研究室備付	147	2,480	7,841	4,346	3,070	2,343	897	672	661	825	23,282
	除却・移譲等による減 (冊)	0	0	28,711	195	0	0	0	1	530	0	29,437	
	和洋区分	和漢書	0	0	7,380	126	0	0	0	0	523	0	8,029
		洋書	0	0	21,331	69	0	0	0	1	7	0	21,408
	年間増加数 (冊)	5,175	3,912	-3,318	8,414	4,425	4,222	2,307	2,537	2,058	3,782	33,514	
和洋区分	和漢書	5,126	2,819	8,016	4,281	3,373	3,379	1,563	1,905	1,800	3,245	35,507	
	洋書	49	1,093	-11,334	4,133	1,052	843	744	632	258	537	-1,993	
雑誌受入	受入雑誌数 (タイトル数)	128	386	2,807	1,202	1,851	975	1,003	845	377	945	10,519	
	和洋区分	国内雑誌	102	294	849	865	1,580	809	472	491	321	815	6,598
		外国雑誌	26	92	1,958	337	271	166	531	354	56	130	3,921
	取得手段	購入(一般財源)	128	151	2,445	728	342	465	394	222	115	167	5,157
		補助金による購入	0	0	34	0	0	0	0	68	0	1	103
		一般寄贈	0	235	328	474	1,509	510	609	555	262	777	5,259
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	100	37	45	174	23	174	0	175	116	307	1,151
		図書館備付	0	297	2,461	756	1,828	492	994	577	246	585	8,236
		研究室備付	28	52	301	272	0	309	9	93	15	53	1,132
受入新聞数 (タイトル数)	7	3	40	10	6	6	9	5	7	13	106		
和洋区分	国内新聞	6	0	24	9	4	6	4	4	7	13	77	
	外国新聞	1	3	16	1	2	0	5	1	0	0	29	
取得手段	購入	6	3	40	10	6	6	9	5	4	11	100	
	寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2	6	
データベース(年間契約点数)	14	0	3	1	0	0	0	0	4	0	23		
電子ジャーナル(利用可能数)	8,848										8,848		
資料購入費	一般財源資料費	286,312,301	19,568,337	191,496,116	52,669,162	16,112,071	26,015,794	22,971,524	19,377,773	14,618,295	17,433,834	666,575,207	
	図書館セグメント	学生用図書	18,049,535	2,472,706	17,733,971	12,027,338	2,735,111	3,309,943	1,000,212	4,421,568	3,759,806	3,635,605	69,145,795
		高学教育研究基金図書費		2,087,500	6,847,885	296,450	1,455,400	2,829,750	157,500		1,343,160	4,977,820	19,995,465
		その他資料費	265,204,785		37,312,913								302,517,698
	部局セグメント	館室備付	1,109,331	5,864,597	99,063,308	16,942,885	8,408,435	2,993,196	19,705,800	13,645,851	6,737,703	6,520,535	180,991,641
		研究室備付	1,948,650	9,143,534	30,538,039	23,402,489	3,513,125	16,882,905	2,108,012	1,310,354	2,777,626	2,299,874	93,924,608
	その他の財源 補助金等		3,779,894	7,492,377	50,821,944	20,351,386	20,143,441	5,958,343	1,429,974	22,088,909	1,357,937	1,231,851	134,656,056
		COE等(外数)			3,135,796	130,891			48,696	3,591			3,318,974
	図書購入費	14,678,565	22,476,099	140,101,096	38,699,263	27,177,417	19,610,983	10,490,174	14,045,162	10,076,649	14,003,461	311,358,869	
	和洋区分	和漢書	14,192,097	12,285,029	42,076,395	16,774,387	18,210,957	12,636,844	4,187,044	9,246,903	8,868,293	6,119,138	144,597,087
		洋書	486,468	10,191,070	98,024,701	21,924,876	8,966,460	6,974,139	6,303,130	4,798,259	1,208,356	7,884,323	166,761,782
	雑誌購入費	55,298,229	4,372,759	94,852,948	20,349,489	6,079,854	9,714,713	13,058,755	16,353,955	5,576,529	3,679,127	229,336,358	
	和洋区分	国内雑誌	1,294,868	649,392	19,431,314	4,083,383	1,318,139	3,427,416	4,915,572	2,656,369	1,917,826	1,673,718	41,367,997
		外国雑誌	54,003,361	3,723,367	75,421,634	16,266,106	4,761,715	6,287,297	8,143,183	13,697,586	3,658,703	2,005,409	187,968,361
	新聞購入費	291,276	41,946	2,435,313	461,856	290,976	136,800	506,351	244,176	134,400	483,568	5,026,662	
	電子資料費	219,742,119		640,972	9,700,836				6,534,783	148,750	476,475	237,243,935	
	その他の資料購入費	82,006	169,910	4,287,731	3,809,104	2,707,265	2,511,641	346,218	4,288,606	39,904	23,054	18,265,439	
資料購入費計	290,092,195	27,060,714	242,318,060	73,020,548	36,255,512	31,974,137	24,401,498	41,466,682	15,976,232	18,665,685	801,231,263		
電子コンテンツ作成費	17,440,519										17,440,519		
製本費	293,454		8,846,460	5,667,102	1,038,870	501,228	1,212,372	1,407,294	627,606	770,868	20,365,254		

附属図書館サービス業務の現況(平成19年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	施設面積合計(㎡)	3,558	10,707	3,287	1,414	1,474	1,164	1,612	848	2,170	26,234	
	現行用途別(㎡)	サービススペース	1,954	2,365	1,577	775	538	170	838	653	719	9,589
		書庫スペース	1,208	5,801	449	473	714	885	431	38	1,051	11,050
		事務スペース	130	524	351	115	89	80	163	35	159	1,646
		その他	266	2,017	910	51	133	29	180	122	241	3,949
	閲覧座席数	閲覧座席数	424	411	223	105	151	11	164	70	133	1,692
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	11	0	0	0	11
	書架収容力	棚板延長(m)	11,554	51,264	10,684	8,824	7,249	6,833	5,616	1,590	7,258	110,872
収容可能冊数		320,900	1,424,000	296,800	245,100	201,400	189,800	156,000	44,200	201,600	3,079,800	
利用者端末台数		46	45	40	16	17	3	15	12	12	206	
利用者	利用対象者総数	6,017	3,905	4,894	652	1,147	34	2,333	682	912	20,576	
	利用者別	学部学生	5,612	2,280	2,244	301	679	0	406	353	488	12,363
		大学院生	179	1,295	1,846	266	325	0	484	239	186	4,820
		教職員	146	301	770	75	129	31	1,191	87	117	2,847
		その他	5	29	34	2	11	3	252	3	34	373
		学外登録者総数	75	0	0	8	3	0	0	0	87	173
内訳: 卒業生等16、放送大学53、一般市民104												
開館入館	開館日数	年間	243	306	267	257	245	230	279	243	252	2,322
		土曜(内数)	29	43	32	31	23	0	47	32	31	268
		休日(内数)	7	35	7	7	7	0	0	1	3	67
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	747	1,026	760.5	526	521	0	948	498	499	5,525.5
		土曜開館	242	354	266	258	187.75	0	376	259.75	258	2,201.5
		休日開館	56	280	56	56	56	0	0	8.25	24	536.25
	入館者数	年間入館者総数	312,448	268,668	182,012	73,643	84,836	9,438	94,442	87,290	49,182	1,161,959
		時間内(含:土日)	277,032	196,968	135,084	62,612	74,091	9,438	58,610	75,181	42,079	931,095
		平日時間外	35,416	71,700	46,777	11,031	10,745	0	16,018	12,109	7,103	210,899
		閉館時(無人)	0	0	151	0	0	0	19,814	0	0	19,965
土曜(内数)		13,791	20,860	8,463	2,369	2,006	0	7,200	4,024	2,393	61,106	
休日(内数)		744	10,300	1,993	215	374	0	0	407	330	14,363	
学外者(内数)		140	818	345	176	76	81	1,367	233	524	3,760	
うち一般市民	103	389	258	44	17	0	711	150	341	2,013		
貸出	貸出総冊数	58,072	72,953	35,484	17,248	16,896	1,685	10,509	14,766	17,016	244,629	
	利用者別	学生	41,804	22,444	21,887	4,196	9,120	101	5,552	10,850	8,919	124,873
		院生	12,826	40,299	11,982	10,349	5,871	790	1,114	2,562	5,051	90,844
		教員	2,052	6,324	1,063	1,936	1,266	558	1,345	1,028	1,644	17,216
		職員	1,179	2,001	511	672	341	236	2,150	302	860	8,252
		その他	33	34	15	10	64	0	337	24	178	695
		学外者総数	178	1,851	26	85	234	0	11	0	364	2,749
うち一般市民	119	0	0	0	0	0	0	0	361	480		
参考調査	参考調査件数	2,738	4,986	3,730	1,541	428	447	1,000	1,458	2,324	18,652	
	利用者別	学生	2,411	2,952	2,520	1,304	330	213	350	1,102	1,513	12,695
		教職員	272	320	940	113	47	174	350	123	242	2,581
		学外者	55	1,714	270	124	51	60	300	233	569	3,376
複写相互利用	来館複写件数		7,968	14,119	18,517	14,266	8,321	3,315	14,219	9,045	909	90,679
	利用者別	学内者	7,688	12,303	17,827	13,914	8,177	3,304	11,307	8,579	696	83,795
		学外者	280	1,816	690	352	144	11	2,912	466	213	6,884
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	36	219	166	288	120	94	392	284	135	1,734
		ILL文献複写 依頼	179	128	317	160	574	0	253	305	77	1,993
	図書配送	配送申込者数	486	680	333	276	479	0	61	116	168	2,599
		配送冊数	1,065	1,162	588	395	1,027	0	105	172	245	4,759
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	120	5,162	2,192	844	656	430	1,879	773	524	12,580
		ILL文献複写 依頼	683	895	1,521	1,231	1,844	2	1,797	1,713	164	9,850
		ILL現物貸借 受付	100	1,446	195	445	199	35	14	22	126	2,582
		ILL現物貸借 依頼	273	404	173	842	398	3	18	53	10	2,174
	海外ILL	文献複写 受付	0	11	0	0	0	0	0	0	1	12
文献複写 依頼		2	5	14	1	3	0	4	10	2	41	
現物貸借 受付		0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
現物貸借 依頼		7	3	0	1	0	0	0	1	1	13	

電子ジャーナルタイトル数 (H19.4)

8,848

電子ジャーナルアクセス状況 (2007.1~12)

フルテキストへのアクセス数

	2007.1	2007.2	2007.3	2007.4	2007.5	2007.6	2007.7	2007.8	2007.9	2007.10	2007.11	2007.12	合計
Elsevier ScienceDirect	24,049	28,849	27,642	27,155	31,472	27,987	32,258	23,010	23,827	32,538	30,433	25,698	334,918
SpringerLINK	2,800	2,807	2,039	2,540	3,670	3,291	3,679	2,960	2,918	3,858	3,913	2,748	37,223
Wiley InterScience	2,530	2,150	2,161	2,722	3,343	2,633	3,001	3,487	2,670	3,655	3,171	2,540	34,063
Blackwell	3,356	2,977	3,388	3,492	3,912	3,931	4,398	3,761	3,640	4,299	3,321	2,907	43,382
JSTOR	4,039	3,568	2,717	4,197	5,388	4,430	4,192	3,265	4,226	5,626	5,561	3,792	51,001
Nature	3,437	3,661	3,040	3,770	4,573	4,221	4,561	4,674	4,060	4,154	3,989	3,388	47,528
Science Online	1,079	988	847	1,379	1,390	1,347	1,312	917	1,087	1,522	1,370	1,122	14,360
IEEE CSLSP-e	460	406	275	1,835	1,024	804	1,240	562	719	794	876	416	9,411
ACM Portal	390	369	232	274	369	364	483	243	250	356	442	161	3,933
APS	1,061	1,525	799	895	1,275	1,090	1,197	729	918	1,561	1,917	1,529	14,496
LWW via Ovid	889	719	798	734	921	756	759	645	533	734	722	801	9,011
ACS	3,292	2,310	2,043	2,079	2,911	2,849	3,591	2,520	2,552	4,136	3,945	2,442	34,670
Oxford UP	1,858	1,682	1,555	1,948	2,075	1,910	1,838	1,331	1,819	2,144	2,306	1,922	22,388
Cambrige UP	205	117	147	164	279	267	302	149	195	1,034	287	325	3,471

導入データベース数 (H19.4)

全学利用	43	WWWアクセス(外部サーバ)16、学内サーバ(SwetScan)1、CD-ROMサーバ26
キャンパス限定(医学、海事)	5	医学3、海事2
スタンドアロン	285	各館館内利用のみ

データベースアクセス状況 (2007.1~12)

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

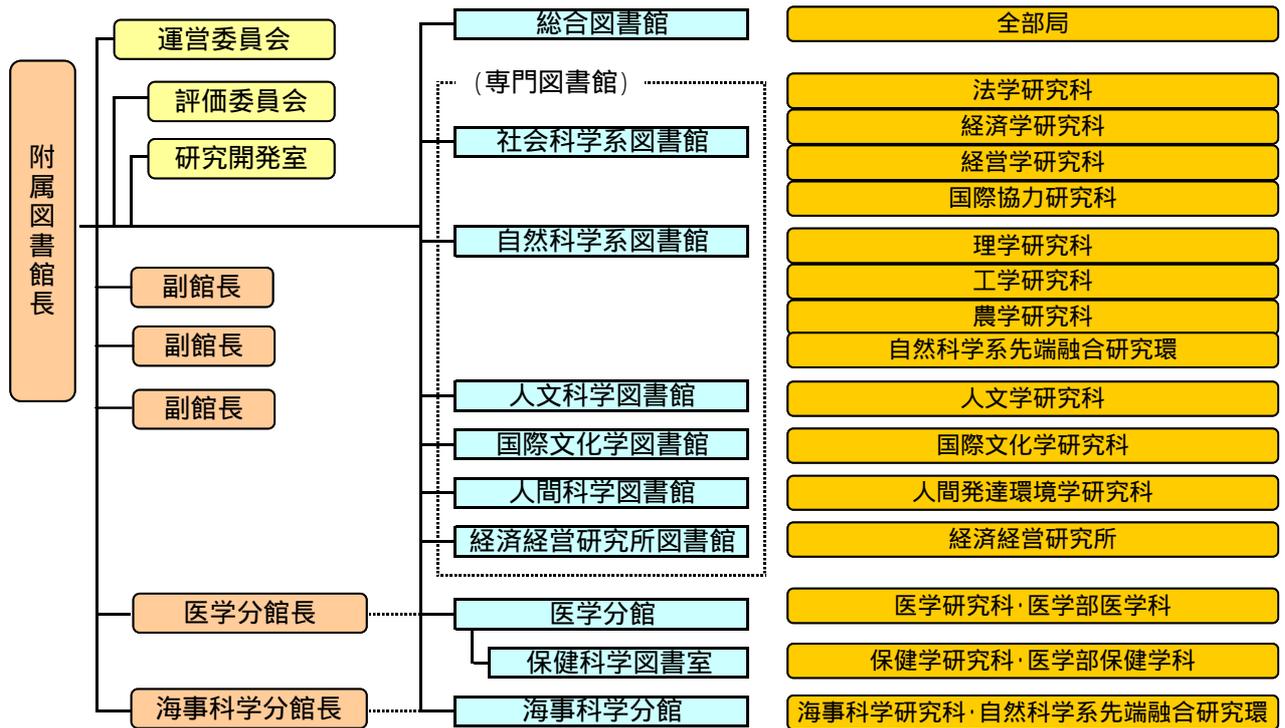
	2007.1	2007.2	2007.3	2007.4	2007.5	2007.6	2007.7	2007.8	2007.9	2007.10	2007.11	2007.12	合計
Web of Science SCIE	1,266 (5,063)	1,167 (4,516)	882 (2,826)	1,361 (5,183)	1,568 (6,089)	1,558 (7,388)	1,528 (5,967)	1,245 (4,557)	1,358 (5,841)	2,101 (9,235)	2,530 (7,698)	1,523 (6,429)	18,087 (70,792)
医学中央雑誌	2,114 (25,482)	1,697 (20,601)	1,702 (23,179)	2,101 (27,744)	2,670 (34,831)	2,727 (31,193)	2,311 (28,199)	1,942 (24,369)	1,970 (25,944)	2,375 (27,249)	2,484 (30,874)	2,173 (27,641)	26,266 (327,306)
MathSciNet	2,767 (3,540)	1,734 (2,381)	2,603 (3,200)	7,140 (7,982)	7,076 (8,014)	8,667 (9,408)	2,708 (3,410)	7,115 (7,670)	2,767 (3,540)	2,652 (3,653)	1,796 (2,483)	1,987 (2,754)	49,012 (58,035)
SciFinder scholar	376 (1,191)	265 (890)	194 (521)	374 (1,426)	499 (1,945)	404 (1,612)	407 (1,547)	312 (1,159)	452 (1,703)	441 (1,860)	377 (1,586)	295 (1,221)	4,396 (16,661)
Readers Guide to Periodical Literature	51 (138)	12 (47)	20 (37)	42 (98)	63 (153)	36 (57)	49 (18)	18 (34)	14 (29)	30 (67)	35 (76)	19 (82)	389 (836)
Business Periodicals Index	63 (163)	21 (159)	29 (202)	76 (214)	63 (224)	52 (126)	64 (214)	26 (76)	25 (55)	30 (126)	57 (227)	35 (148)	541 (1,786)
EconLit	242 (1,148)	259 (1,123)	188 (924)	317 (1,339)	360 (1,837)	275 (1,296)	265 (1,876)	199 (1,038)	239 (1,161)	304 (1,462)	264 (1,272)	170 (869)	3,082 (15,345)
Index to Legal Periodicals & Books	54 (153)	21 (45)	24 (82)	37 (82)	39 (111)	34 (70)	36 (112)	18 (46)	11 (12)	24 (50)	36 (77)	19 (79)	353 (919)
JCR	411 (762)	466 (734)	364 (472)	436 (589)	540 (755)	678 (991)	660 (1,009)	623 (896)	483 (685)	543 (746)	529 (761)	544 (1,076)	6,277 (9,476)
JapanKnowledge	262 (9,421)	220 (6,318)	230 (5,342)	276 (10,961)	569 (16,517)	324 (13,555)	463 (16,723)	208 (8,659)	181 (8,671)	193 (18,420)	129 (18,546)	139 (16,072)	3,194 (101,597)
CiNii	207 (9,421)	165 (6,318)	151 (5,342)	322 (10,961)	486 (16,517)	250 (13,555)	216 (16,723)	220 (8,659)	177 (8,671)	290 (18,420)	411 (18,546)	428 (16,072)	3,323 (101,597)
日経テレコン21	40,598	7,806	11,930	23,070	12,839	20,813	50,679	120,310	69,127	192,967	124,474	112,372	786,985
MAGAZINEPLUS	332	316	208	747	510	601	1,092	280	108	237	202	161	4,794
理科年表プレミアム	31	7	16	37	30	17	17	12	7	18	21	10	223
文字鏡	4	6	6	11	50	87	11	4	2	5	0	2	188
JDreamII	*	*	*	434	581	1,177	418	309	441	917	543	482	5,302

聞蔵(朝日新聞)、官報は統計データ未公開 JDreamIIは4 - 5月試行期間
日経テレコン21 7月より全館利用可能に SwetScanは12/16で終了

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計 (H19.4~H20.3)

	H19.4	H19.5	H19.6	H19.7	H19.8	H19.9	H19.10	H19.11	H19.12	H20.1	H20.2	H20.3	合計
図書館トップページ	64,570	74,519	59,659	75,469	48,850	43,329	72,708	63,510	57,065	47,388	43,857	48,992	699,916
(うち学内)	47,272	56,819	42,435	56,262	30,913	26,930	52,459	43,829	38,318	27,473	26,554	32,401	481,665
(うち学外)	17,298	17,700	17,224	19,207	17,937	16,399	20,249	19,681	18,747	19,915	17,303	16,591	218,251
震災文庫トップページ	3,245	3,555	3,287	3,855	3,607	3,084	4,252	4,610	3,682	5,408	3,575	2,741	44,901
(うち学内)	162	226	172	229	142	140	209	177	132	379	467	243	2,678
(うち学外)	3,083	3,329	3,115	3,626	3,465	2,944	4,043	4,433	3,550	5,029	3,108	2,498	42,223
新聞記事文庫トップページ	6,545	9,115	8,806	8,965	5,898	7,519	7,878	8,553	8,589	8,013	5,772	5,157	90,810
(うち学内)	58	122	81	133	127	47	109	132	138	190	223	197	1,557
(うち学外)	6,487	8,993	8,725	8,832	5,771	7,472	7,769	8,421	8,451	7,823	5,549	4,960	89,253
OPAC延べ検索回数	148,236	200,265	142,524	227,170	208,010	125,255	187,026	148,988	139,484	122,768	106,782	97,630	1,854,138
(うち学内)	103,044	147,182	110,979	161,088	77,719	61,456	120,928	116,427	97,657	93,436	79,022	52,228	1,221,166
(うち学外)	45,192	53,083	31,545	66,082	130,291	63,799	66,098	32,561	41,827	29,332	27,760	45,402	632,972

< 附属図書館組織図 >



< 附属図書館事務組織図 >

		係名	正規	非常勤	館室名	
事務部長	情報管理課	情報リテラシー係	2	0	総合図書館・ 国際文化学図書館	
		総合・国際文化学情報サービス係	2	3		
	情報管理課長	課長補佐	企画係	2	1	社会科学系図書館
			管理係	3	1	
			図書受入係	3	2	
			雑誌情報係	2	2	
			目録情報係	2	5	
			電子図書館係	2	3	
			社会科学系情報サービス係	3	6	
	情報サービス課長	課長補佐	自然科学系情報管理係	2	2	自然科学系図書館
			情報システム係	2	0	
			自然科学系情報サービス係	3	2	
			人文科学情報サービス係	3	2	人文科学系図書館
	情報サービス課長	課長補佐	人間科学情報サービス係	3	2	人間科学系図書館
			医学情報管理係	2	1	医学分館
医学情報サービス係			2	2		
情報サービス課長	課長補佐	保健科学情報サービス係	1	2	保健科学系図書室	
		海事科学情報サービス係	3	2	海事科学分館	
		経済経営研究所事務長	3	1	経済経営研究所図書館	

正規職員49名 非常勤職員38名(平成20年5月)

*非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

平成19年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 6月5日(火) 15:00～16:50(於：附属図書館プレゼンホール)

協議事項

- (1) 平成18年度決算について
- (2) 高額教育研究基盤図書の選定について
- (3) 2008年外国雑誌購読調査について
- (4) 平成19年度電子図書館事業について
- (5) 平成19年度目録遡及入力事業について
- (6) 平成19年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (7) 運営委員会規程の一部改正について
- (8) 図書資産の損害保険契約について
- (9) その他

報告事項

- (1) 図書館・室報告について
- (2) 平成20年度特別教育研究経費要求について
- (3) 建物改修計画の状況について
- (4) 平成19年度図書館各種ガイダンスについて
- (5) その他

第2回： 10月29日(月) 15:00～17:00(於：附属図書館プレゼンホール)

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 平成19年度補正予算について
- (3) 平成20年度年次計画及び19年度年次計画進捗状況について
- (4) 大学機関別認証評価用部局評価シートについて
- (5) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 附属図書館評価委員会報告について
- (3) 機関リポジトリの進捗状況について
- (4) 電子図書館システムのリプレースについて
- (5) 平成19年度常設展の開催について
- (6) 蔵書点検の進捗状況について
- (7) 平成19年度建物改修計画について
- (8) 平成19年度図書館各種ガイダンス(後期)について
- (9) その他

第3回： 1月22日（火） 10:30～12:00（於：自然科学系図書館）

協議事項

- （1） 附属図書館関係規則の改正について
- （2） 教育研究基盤資料の整備について
- （3） 電子図書館事業について
- （4） 平成20年度附属図書館予算要求について
- （5） その他

報告事項

- （1） 各図書館・室報告について
- （2） 平成19年度建物改修計画の進捗状況について
- （3） 学術成果リポジトリの構築状況について
- （4） 平成19年度第2回展示会の開催について
- （5） 韓国海洋大学校図書館との協定締結について
- （6） その他

第4回： 3月19日（水） 10:30～12:00（於：自然科学系図書館）

協議事項

- （1） 平成20年度附属図書館当初予算配分について
- （2） 平成20年度附属図書館学生用資料について
- （3） 図書館関係規則の改正について
- （4） 資料の不用決定について
- （5） その他

報告事項

- （1） 各図書館・室報告について
- （2） 平成19年度年度計画の達成度評価について
- （3） 平成19年度建物改修計画の進捗状況について
- （4） 高額教育研究基盤図書のおすすめ依頼について
- （5） その他

<附属図書館長・副館長懇談会>

第1回： 4月26日（木）10:00～ （於：社会科学系図書館）

議題

- （1） 附属図書館の現状及び課題について
- （2） その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 5月25日（金）10:00～ （於：社会科学系図書館）

議題

- （1） 高額教育研究基盤図書の選定について
- （2） 附属図書館研究開発室の体制について
- （3） その他

第2回： 1月22日(火)9:30~10:20 (於：社会科学系図書館)

議題

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 電子図書館事業について
- (3) 平成20年度附属図書館予算要求について
- (4) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 10月23日(火) 13:30~ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題：

- (1) 附属図書館年次報告について
- (2) 平成20年度年次計画及び19年度年次計画進捗状況について
- (3) その他

第2回： 2月21日(木) (メール会議)

議題：

- (1) 平成19年度年次計画達成度報告及び特記事項について

<附属図書館研究開発室会議>

第1回： 5月29日(火) 15:00~ (於：附属図書館プレゼンホール)

報告事項

- (1) 平成18年度電子化事業報告
- (2) 平成18年度学術成果リポジトリ事業報告
- (3) その他報告
 - ・電子図書館システムリプレイス(H20.2)について

協議事項

- (1) 平成19年度電子化事業計画(学術成果リポジトリを含む)
- (2) その他計画
 - ・リンクリゾルバの導入
- (3) 今後の電子化事業の進め方について

第2回： 1月17日(木) (メール会議)

協議事項

- (1) 平成19年度電子図書館事業経費配分の変更について
- (2) 平成20年度電子図書館事業経費要求について

<全学図書系係長会議>

第1回： 6月26日(火) 15:30~ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- 1. 事業計画について
 - (1) 神戸大学附属図書館ワーキンググループの設置(案)について
 - (2) 平成19年度係別事業計画所要額一覧
 - (3) 本年度の事業計画及び課題について

2. その他

- (1) 中期計画・年度計画管理表
- (2) 【ビジョン・政策・実施項目】政策実施項目シート

第2回： 10月2日(火) 15:00～(於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 平成20年度年次計画及び19年度年次計画進捗状況について
- (3) 部局との連携について
- (4) シラバスの現状及びその問題点と改善点について
- (5) NACSIS-CAT/ILL 業務分析における課題について
- (6) 図書館職員(係員)懇談会の結果について
- (7) その他

第3回： 11月20日(火) 15:00～(於：自然科学系図書館)

議題

- (1) 附属図書館事務組織の再編について
- (2) 各WGの進捗状況と課題等について
- (3) その他

第4回： 12月10日(月) 15:00～(於：自然科学系図書館)

議題

- (1) 附属図書館事務組織の再編について
- (2) その他

第5回： 1月25日(金) 15:30～(於：自然科学系図書館)

審議事項

- (1) 財務会計システムと図書館システムについて
- (2) 附属図書館事務組織の再編について
- (3) 附属図書館ホームページ改訂について
- (4) 当面の諸課題について
- (5) その他

報告事項

- (1) 附属図書館運営委員会(平成19年度第3回)について
- (2) 学術成果リポジトリコンテンツ(学位論文)の構築について
- (3) その他

第6回： 3月26日(水) 15:30～(於：自然科学系図書館)

- (1) 運営委員会の報告
- (2) 卒業生の貸出サービスについて
- (3) 電子ジャーナルの不正使用時の対応について
- (4) 部局等への通知文書について
- (5) 図書分類標準化について
- (6) その他

< 附属図書館運営委員会委員名簿 >

	職 名	氏 名	任 期 等
図書館長	理・教授	武田 廣	H19.4.1～H21.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	営・教授	出井 文男	H19.4.1～H21.3.31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	環・教授	塩谷 茂明	H19.4.1～H21.3.31
副館長 (附属図書館評価委員長)	国・教授	三上 剛史	H19.4.1～H21.3.31
医学分館長	医・教授	熊谷 俊一	H19.6.1～H21.5.31
海事科学分館長	海・教授	丸尾 健二	H18.4.1～H20.3.31
大学教育推進機構	教 授	米谷 淳	H19.4.1～H21.3.31
人文学研究科	教 授	福長 進	H19.4.1～H21.3.31
国際文化学研究科	教 授	松家 理恵	H19.4.1～H20.3.31
発達科学部	教 授	柳田 泰義	H18.4.1～H20.3.31
法学研究科	教 授 教 授	山本 弘 中野 俊一郎	H19.4.1～H19.9.30 H19.10.1～H21.3.31
経済学研究科	教 授	滝川 好夫	H18.4.1～H20.3.31
経営学研究科	教 授	加登 豊	H19.4.1～H21.3.31
理学部	教 授	郡司 幸夫	H18.4.1～H20.3.31
医学部(保健学科)	教 授	傳 秋光	H18.4.1～H20.3.31
工学部	教 授	飯塚 敦	H19.4.1～H21.3.31
農学部	教 授	向井 文雄	H18.4.1～H20.3.31
国際協力研究科	教 授	柴田 明穂	H19.4.1～H20.3.31
自然科学研究科	教 授	西野 孝	H19.4.1～H21.3.31
経済経営研究所	教 授	小島 健司	H19.4.1～H21.3.31
学術情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	H18.4.1～H20.3.31
附属図書館	事務部長	棚橋 章	官職指定による

< 附属図書館評価委員会委員名簿 >

職名 (委員は全て官職指定)	氏名	備考
図書館長	武田 廣	
副館長	出井 文男	
副館長	塩谷 茂明	
副館長	三上 剛史	
医学分館長	熊谷 俊一	
海事科学分館長	丸尾 健二	
事務部長	棚橋 章	
情報管理課長	奥田 正義	
情報サービス課長	岩淵 恭幸	

< 附属図書館研究開発室室員名簿 >

職名		氏名	備考
総括	図書館長	武田 廣	室長
震災関係資料 電子化部会	副館長(国)	三上 剛史	部会長
	国文・教授	大月 一弘	~H20.3.31
	都市安・教授	沖村 孝	~H20.3.31
	文・教授	奥村 弘	~H20.3.31
経済関係資料 電子化部会	副館長(営)	出井 文男	部会長
	研究所・教授	富田 昌宏	~H20.3.31
	経済・教授	重富 公生	~H20.3.31
	海事・教授	石田 憲治	~H20.3.31
学内研究成果 電子化部会	副館長(自)	塩谷 茂明	部会長
	農・教授	金子 治平	~H20.3.31
	経営・助手	末次 晃	~H20.3.31
	都市安・教授 (医学系研究科)	鎌江 伊三夫	~H20.3.31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	~H20.3.31

平成19年度 附属図書館 予算・決算

単位：千円

事 項	平成19年度 予算配分額	平成19年度 決算額	比較増減	摘 要
経常運営費				
備品・消耗品費	11,824	13,662	1,838	備品費 6,916 事務用品 1,491 図書館用品 1,675 用紙類 491 電算消耗品 1,537 蛍光灯類 469 雑用品 1,083
事務用図書費	800	869	69	
印刷製本費	1,200	1,253	53	利用案内 452 封筒 801
光熱水料	24,600	22,680	1,920	電気代 15,730 ガス代 2,668 水道代 3,910 重油代 372
通信運搬費	7,000	6,217	783	切手代 1,633 郵便料 2,705 電話代 350 学内資料搬送 1,529
借料及び損料	7,100	6,374	726	複写機 6,282 タクシー代 92
雑役務等諸経費	35,000	36,865	1,865	管理費 3,602 機器修理 532 廃棄物収集運搬 2,235 特高設備 1,556 清掃委託 8,880 警備委託 4,460 EV保守 5,363 消防設備点検 1,156 文献複写 1,438 その他保守・業務費 5,329 謝金 1,437 諸会費 209 雑費 667
非常勤職員給与等	95,000	92,545	2,455	給与 79,734 社会保険料 9,477 労働保険料 1,114 賞与引当金 2,220
電子計算機維持経費	120	120	0	情報基盤センター利用負担金
職員旅費	1,000	1,085	85	会議・研修会・講習会旅費 835 地下鉄カード 250
小 計	183,644	181,670	1,974	
経常事業費				
時間外閉館経費	21,500	20,404	1,096	
外部委託	10,512	10,009	503	社会科学系図書館、医学分館分
閉館要員(学生)賃金	10,988	10,395	593	その他の館室分
電子図書館事業	20,000	19,946	54	
外部委託経費(コンテンツ作成)	10,000	5,134	4,866	
外部委託経費(遊及外注)	6,500	6,563	63	
アルバイト経費	2,500	2,437	63	
消耗品費	1,000	2,373	1,373	
*追加項目		3,439	3,439	電子図書館システム更新に伴うネットワーク機器の購入、横断検索用機能拡張及びリンクリゾルバ対応機能拡張のための経費
その他事業費	300	845	545	
展示会経費	300	845	545	
図書館資料費	110,500	115,179	4,679	
学生用資料費	63,000	69,146	6,146	
震災文庫資料費	500	502	2	
外国雑誌センター館経費	35,000	36,811	1,811	
電子的情報基盤資料整備経費	12,000	8,720	3,280	SciFinderライセンス料3,520千円(利用者負担金)を含む
製本費	14,000	14,196	196	
業務改善経費	6,120	3,962	2,158	
雑誌製本業務	3,240	3,240	0	
目録登録業務	2,880	722	2,158	残額については、学生用資料費と一体で執行
小 計	172,420	174,532	2,112	
運営費+事業費	356,064	356,202	138	
電算機借料				
図書館業務システム	13,869	13,869	0	学術情報基盤センターで一括処理
電子図書館システム	55,390	55,390	0	
小 計	69,259	69,259	0	
経常経費 計	425,323	425,461	138	

事 項	平成19年度 予算配分額	平成19年度 決算額	比較増減	摘 要
臨時的経費				
教育研究基盤資料整備費	280,000	280,000	0	外国雑誌を含む電子ジャーナル、データベース及び高額教育研究基盤図書等の維持及び整備のための経費 全学経費150,000千円+部局拠出分130,000千円
収入確保インセンティブ経費	9,889	5,510	4,379	支出はILL文献複写料等支払料金4,514千円、貴重資料の修復・保存996千円
移転費	28,739	19,594	9,145	建物改修に伴う総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館の移転費 平成20年度への繰り越し分(13,621千円)は含まず
建物新営設備費	44,412	65,905	21,493	建物改修に伴う総合・国際文化学図書館、人文科学図書館及び人間科学図書館の設備費 平成20年度への繰り越し分(4,326千円)は含まず
職員厚生経費	55	55	0	
赴任旅費	267	267	0	
小 計	363,362	371,331	7,969	
その他の臨時的経費				
教員等館内複写料金	4,601	0	4,601	
SciFinder 利用者負担金	3,520	0	3,520	電子的情報基盤資料整備経費に計上
小 計	8,121	0	8,121	
外部資金				
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	15,400	15,400	0	戦前期新聞経済記事データベース
国立情報学研究所CSI委託事業費	5,500	5,500	0	機関リポジトリ構築及び機関リポジトリに係る研究開発
国立情報学研究所委託事業費	2,799	2,799	0	遊及入力事業
教育研究活性化支援経費(間接経費)	84	84	0	図書館ホームページリニューアル
山口哲子奨学寄付金	2,599	2,599	0	山口文庫資料購入
小谷要・学奨学寄付金	980	980	0	小谷要・学文庫資料購入
小 計	27,362	27,362	0	
臨時的経費 計	398,845	398,693	152	

図書館セグメント 計	824,168	824,154	14
------------	---------	---------	----

平成19年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館室名	学生用資料			震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	電子的情 報基盤資 料整備経 費**	教育研究基盤資料整備費		計****
	予算額*	決算額*	比較増減				電子ジャーナル等	高額教育研究 基盤図書費	
総合図書館	16,867	18,049	1,182			8,720	260,005		286,774
社会科学系図書館	14,397	17,734	3,337	502	36,811			6,848	61,895
自然科学系図書館	11,549	12,027	478					296	12,323
人文科学図書館	2,273	2,735	462					1,455	4,190
国際文化学図書館	2,209	2,473	264					2,087	4,560
人間科学図書館	3,310	3,310	0					2,830	6,140
経済経営研究所図書館	1,000	1,000	0					158	1,158
医学分館	4,402	4,422	20					0	4,422
保健科学図書室	3,360	3,760	400					1,343	5,103
海事科学分館	3,633	3,636	3					4,978	8,614
小計	63,000	69,146	6,146	502	36,811	8,720	260,005	19,995	395,179

注* 図書その他 雑誌・新聞・電子資料などを含む ** 利用者負担金を含む ***電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

*** これ以外に、電子コンテンツ作成費 17,440千円(科研費補助金を含む)

(部局セグメント)

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	1,109	1,949	3,058
社会科学系図書館	99,063	30,538	129,601
自然科学系図書館	16,943	23,402	40,345
人文科学図書館	8,408	3,513	11,921
国際文化学図書館	5,865	9,144	15,009
人間科学図書館	2,993	16,883	19,876
経済経営研究所図書館	19,706	2,108	21,814
医学分館	13,646	1,310	14,956
保健科学図書室	6,738	2,778	9,516
海事科学分館	6,521	2,299	8,820
計	180,992	93,924	274,916

(部局セグメント)

館室名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	260	0	0	0	260
社会科学系図書館	37,683	1,598	566	10,975	50,822
自然科学系図書館	15,080	1,013	1,707	2,551	20,351
人文科学図書館	14,793	5	614	4,731	20,143
国際文化学図書館	6,436	49	20	987	7,492
人間科学図書館	4,662	63	97	1,137	5,959
経済経営研究所図書館	1,424	6	0	0	1,430
医学分館	2,576	5,841	380	13,292	22,089
保健科学図書室	866	236	18	238	1,358
海事科学分館	901	331	0		1,232
計	84,681	9,142	3,402	33,911	131,136

(合計)

合計	(外数) COE等
290,092	0
242,318	3,136
73,019	131
36,254	0
27,061	0
31,975	0
24,402	49
41,467	4
15,977	0
18,666	0
801,231	3,320

平成19年度附属図書館活動日誌

< 4月 >

- 6 (金) 入学式
- 9 (月) ~ 13日 (金) OPAC ガイダンス < 於: 総合図書館 >
- 12 (木) 神戸大学外国人留学生全学オリエンテーション(図書館ガイダンスを含む)
- 17 (火) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会
< 於: 京都大学 出席: 部長・両課長他 >
- 23 (月) 第1回海事科学分館図書委員会
第1回人文科学図書館図書委員会
- 24 (火) 第1回経済経営研究所図書委員会
近畿地区国立大学図書館協会加盟館図書系人事担当課長・事務長懇談会
< 於: 京都大学 出席: 管理課長 >
国立大学図書館協会近畿地区協会総会
< 於: 京都大学 出席: 館長・部長・両課長 >
- 26 (木) 附属図書館長・副館長懇談会 < 於: 社会科学系図書館 >
第1回国際文化学図書館図書委員会
第1回社会科学系図書館図書委員会

< 5月 >

- 8 (火) 電子図書館システム仕様策定委員会
- 8 (火) ~ 11 (金) 情報の探し方ガイダンス(基本的なデータベースの使い方)
< 於: 自然科学系図書館 >
- 9 (水) 兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議
< 於: 図書館プレゼンホール 出席: 部長・両課長他 >
- 14 (月) 第1回自然科学系図書館図書委員会
- 15 (火) 目録システム講習会講演会
< 於: 国立情報学研究所 出席: 目録情報係長 >
- 17 (木) 外国雑誌センター館会議
< 於: 東京工業大学 出席: 管理課長・雑誌情報係長 >
UniBio Press セミナー < 於: 京都大学 受講: 2名 >
- 18 (金) 国立大学図書館協会会計監査
< 於: 東京大学 出席: 部長・管理課長 >
国立大学図書館協会学術情報委員会 < 於: 東京大学 出席: 部長 >
国立大学図書館協会理事会
< 於: 東京大学 出席: 館長・部長・管理課長 >
国立大学図書館協会学術情報委員会 < 於: 東京大学 出席: 部長 >
- 21 (月) ~ 22 (火) 目録システム講習会模擬演習 < 於: 国立情報学研究所 受講: 1名 >
- 22 (火) 日本医学図書館協会近畿地区例会
< 於: 滋賀医科大学 出席: 管理課長補佐(医学) >
兵庫県大学図書館協議会企画委員会
< 於: 神戸女学院 出席: 部長・両課長他 >
- 25 (金) 第1回館長・副館長・分館長懇談会 < 於: 社会科学系図書館 >
- 29 (火) 第1回附属図書館研究開発室会議 < 於: 図書館プレゼンホール >

31(木)～1(金) 第78回NPO法人日本医学図書館協会総会
<於:大宮ソニックシティ 出席:管理課長補佐(医学)>

<6月>

5(火) 第1回附属図書館運営委員会 <於:図書館プレゼンホール>
6(水) 国立大学図書館協会学術情報委員会
<於:筑波大学東京キャンパス 出席:部長>
8(金) 第2回国際文化学図書館図書委員会
15(金) 第2回人文科学図書館図書委員会
16(土)～30(土) 麻疹による休校措置に伴う土曜開館(保健科学図書室)
16(土)～8月4日(土) 麻疹による休校措置に伴う土曜開館(総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・自然科学系図書館・人文科学図書館・人間科学図書館・海事科学分館)
18(月)～19(火) 情報の探し方ガイダンス(個々のデータベースの使い方)
<於:自然科学系図書館>
20(水) 第1回保健科学図書室図書委員会
第1回近畿イニシア運営委員会
<於:関西学院大学 出席:部長・管理課長>
26(火) 第1回図書館係長会議 <於:図書館プレゼンホール>
26(火)～27(水) 情報の探し方ガイダンス(社会科学編)
<於:社会科学系図書館>
27(水) 国立大学図書館協会マネジメントセミナー
<於:福岡システムLSI総合開発センター
出席:館長・部長・サービス課長>
国立大学図書館協会総会レセプション
<於:シーホークホテル福岡 出席:館長・部長>
28(木) 国立大学図書館協会総会
<於:シーホークホテル福岡 出席:館長・部長・サービス課長>
国立大学図書館協会近畿地区専門分野別研修「情報」
<於:大阪大学 受講:1名>

<7月>

2(月)～13(金) 大学図書館職員長期研修 <於:筑波大学 受講:1名>
3(火) CSI委託事業報告交流会
<於:ベルサール九段 出席:管理課長補佐(医学)・電子図書館係長>
6(金) 第1回医学分館図書委員会
15(日)～8月6日(月) 前期試験期特別開館
(総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・人文科学図書館・人間科学図書館)
17(火) 第1回全国図書館大会兵庫大会準備委員会
<於:兵庫県立図書館 出席:サービス課長補佐>
18(水) ネットワーク管理担当者研修 <於:大同生命江坂ビル 受講:1名>
20(金) 第1回近畿イニシア能力開発専門委員会
<於:関学梅田キャンパス 出席:管理課長補佐(海事)>
22(日)～8月6日(月) 前期試験期特別開館(自然科学系図書館)

- 23(月) 兵庫県立大学図書館協議会総会
 < 於：神戸女学院 出席：館長・部長・両課長他 >
- 26(木) 第1回医図協近畿地区会シンポジウム実行委員会
 < 於：兵庫医科大学 出席：管理課長補佐(医学) >
- 29(土)～8月6日(月) 前期試験期特別開館(海事科学分館)
- 30(月)～8月10(金) 筑波大学より図書館情報学実習生受入 < 於：社会科学系図書館他 >
- 31(火) 第1回全国図書館大会分科会検討委員会
 < 於：兵庫県立図書館 出席：サービス課長補佐 >

< 8月 >

- 7(火)～8月9(木) 前期試験期特別開館(保健科学図書室)
- 20(月)～8月24(金) 図書館情報学実習生受入
- 21(火) 電源設備点検(停電)のため休館
 (人間科学を除く六甲台キャンパス各館)
- 29(水) 第2回全国図書館大会兵庫大会準備委員会
 < 於：兵庫県立図書館 出席：部長 >

< 9月 >

- 5(水) アプリケーションソフト研修(エクセル応用)
 < 於：神大会館 受講：2名 >
- 国立大学図書館協会シンポジウム
 < 於：大阪大学 出席：部長・他4名 >
- 11(火) アプリケーションソフト研修(ワード)
 < 於：神大会館 受講：1名 >
- 12(水) アプリケーションソフト研修(Powerpoint)
 < 於：神大会館 受講：1名 >
- 第2回近畿イニシア能力開発専門委員会
 < 於：関学梅田キャンパス 出席：管理課長補佐(海事) >
- 12(水)～14(金) 目録システム地域講習会(図書コース)
 < 於：社会科学系図書館 受講：3名 >
- 20(木)～12月21(金) 神戸大学附属図書館第1回常設展
 「近代神戸の源流を訪ねて - 開港と居留地 -」
 < 於：社会科学系図書館 >
- 21(金) 学内会計監査
 第3回近畿イニシア能力開発専門委員会
 < 於：関学梅田キャンパス 出席：管理課長補佐(海事) >
- 25(火) 電子ジャーナル地区説明会
 < 於：京都大学 出席：管理課長・雑誌情報係長 >
- 国立大学図書館協会学術情報委員会
 < 於：筑波大学東京キャンパス 出席：部長 >
- 27(木) 日本医学図書館協会電子ジャーナル・コンソーシアム説明会
 < 於：大阪大学 出席：情報管理係長(医学) >

- 28 (金) 第2回全国図書館大会兵庫大会分科会検討委員会
 < 於：兵庫県立図書館 出席：サービス課長補佐 >
- 29 (土) 第2回神戸大学ホームカミングデイ
 < 於：六甲台キャンパス 常設展・震災文庫イベント参加 >
- < 10月 >**
- 1 (月) ~ 6 (土) 北米の大学教育調査
 < 於：プリティッシュコロンビア大学、ワシントン大学 参加：1名 >
- 2 (火) 第2回図書館係長会議 < 於：図書館プレゼンホール >
- 3 (水) 第2回近畿イニシア運営委員会
 < 於：同志社大学 出席：部長・管理課長 >
- 5 (金) 第2回人間科学図書館図書委員会
- 9 (火) ~ 12 (金) 近畿地区国立大学法人会計事務研修
 < 於：瀧川会館 受講1名 >
- 10 (水) ~ 12 (金) 学術情報リテラシー教育担当者研修 < 於：大阪大学 受講：1名 >
- 11 (木) 第2回医図協近畿地区会シンポジウム実行委員会
 < 於：兵庫医科大学 出席：管理課長補佐(医学)他 >
- 16 (火) 大学図書館職員短期研修 < 於：京都大学 受講：2名 >
- 22 (月) 第2回社会科学系図書館図書委員会
- 23 (火) 第1回附属図書館評価委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
- 23 (火) ~ 24 (水) 情報の探し方ガイダンス < 於：自然科学系図書館 >
- 24 (水) 京都大学図書館機構公開事業
 < 於：京都大学芝蘭会館 管理課長補佐(海事)他 >
- 25 (木) 情報の探し方ガイダンス < 於：海事科学図書館 >
- 26 (金) 第3回国立大学図書館協会理事会
 < 於：筑波大学 出席：館長・部長・管理課長 >
- 29 (月) 第2回附属図書館運営委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
- 30 (火) 情報の探し方ガイダンス < 於：保健科学図書室 >
- < 11月 >**
- 1 (木) NAIST 電子図書館学講座
 < 於：奈良先端科学技術大学院大学 受講：1名 >
- 5 (月) 国立大学協会近畿地区支部専門分野別研修
 < 於：大阪大学 出席：部長 >
- 5 (月) ~ 9 (金) トライやるウィーク 神戸市立筒井台中学校(4名)
 < 於：社会科学系図書館 >
 トライやるウィーク 神戸市立鷹匠中学校(2名)
 < 於：自然科学系図書館 >
- 6 (火) 漢籍担当職員講習会 < 於：京都大学 受講：1名 >
 第1回日本医学図書館協会雑誌委員会
 < 於：毎日コミュニケーション会議室 出席：管理課長補佐(医学) >
- 6 (火) ~ 9 (金) 西洋社会科学古典資料講習会 < 於：一橋大学 受講：1名 >
- 7 (水) 第4回近畿イニシア能力開発専門委員会
 < 於：大阪市立大学 出席：管理課長補佐(海事) >

- 9 (金) 第3回国際文化学図書館図書委員会
第3回 DRF ワークショップ
＜於：パシフィコ横浜 出席：管理課長補佐（海事）他＞
日本医学図書館協会近畿地区会シンポジウム
＜於：兵庫医療大学 出席：管理課長補佐（医学）他＞
図書館職員研修 ＜於：大阪府立大学 受講：1名＞
- 13 (火) FDに関する北米調査団報告会
＜於：六甲ホール 出席：部長・管理課長＞
- 14 (水) 監査法人による期中監査
- 16 (金) 兵庫県大学図書館協議会講演会
「絵本の扉をひらく」 ＜於：聖和大学 出席：管理課長他＞
第1回 DRF 国際シンポジウム地域組織委員会
＜於：大阪大学生命科学分館 出席：部長・管理課長補佐（海事）＞
- 20 (火) 第3回図書館係長会議 ＜於：自然科学系図書館＞
- 21 (水) 第3回人文科学図書館図書委員会
- 21 (水)～22 (木) 近畿イニシア中級研修
＜於：大阪市立大学 参加：管理課長補佐（海事）＞
- 27 (火) 兵庫県大学図書館協議会見学会 ＜於：大手前大学 出席：企画係長他＞
- 28 (水) NII とのワークショップ【国大図協】
＜於：国立情報学研究所 出席：部長＞
- 29 (木) 年次計画等に関するヒアリング
＜於：自然科学系先端融合研究環大会議室
出席：館長・部課長補佐・企画係長＞
- 30 (金) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系試験実施専門委員会
＜於：京都大学 出席：部長＞
国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会
＜於：京都大学 出席：部長・サービス課長＞
日本医学図書館協会近畿地区会例会
＜於：大阪体育大学 出席：管理課長補佐（医学）＞
- < 12月 >**
- 5 (水) 韓国海洋大学校との事前打合せ
＜於：韓国海洋大学校（釜山） 出席：部長・管理課長補佐（海事）＞
京都大学図書館機構第1回講演会
「古典籍の修復と取り扱い」 ＜於：京都大学 出席：2名＞
- 7 (金) 兵庫県大学図書館協議会研究会「目録業務の将来と大学図書館」
＜於：関西学院大学 出席：企画係長他＞
- 10 (月) 第4回図書館係長会議 ＜於：自然科学系図書館＞
- 11 (火)～12 (水) 共済組合年次監査
- 18 (火)～20 (木) 図書館等職員著作権実務講習会
＜於：国立オリンピック記念青少年総合センター 受講：1名＞
- 19 (火) 韓国海洋大学校との調印式 ＜於：社会科学系図書館＞
第4回人文科学図書館図書委員会
- 26 (水) 北米大学教育調査団報告 ＜於：自然科学系図書館＞

< 1月 >

- 15 (火) 第5回近畿イニシア能力開発専門委員会
< 於：花園大学 出席：管理課長補佐(海事) >
- 22 (火) 第2回館長・副館長・分館長懇談会 < 於：自然科学系図書館 >
第3回附属図書館運営委員会 < 於：自然科学系図書館 >
- 24 (木) 第1回医学図書館研究会・継続教育コース実行委員会
< 於：関西医科大学 出席：管理課長補佐(医学) >
- 25 (金) 第5回図書館係長会議 < 於：自然科学系図書館 >
- 25 (金) ~ 2月7日(木) 後期試験期特別開館
(総合・国際文化学図書館・人文科学図書館・人間科学図書館)
- 25 (金) 後期試験期特別開館(自然科学系図書館)
~ 2月13日(水)
- 25 (金) 後期試験期特別開館(社会科学系図書館)
~ 2月14日(木)
- 28 (月) 学生との懇談会
< 於：社会科学系図書館 出席：館長・副館長(社系)他 >
- 30 (水) DRF 国際会議 2008 < 於：大阪大学 出席：部長他 >

< 2月 >

- 7 (木) 第3回人間科学図書館図書委員会
- 12 (火) ~ 20 (水) 後期試験期特別開館(海事科学分館)
- 13 (水) 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会
< 於：人と未来防災センター 出席：電子図書館係長 >
- 15 (金) 目録システム/ILLシステム講習会担当者会議
< 於：国立情報学研究所 出席：1名 >
- 15(金) ~ 6月20(金) 神戸大学附属図書館第2回常設展
「近代神戸の源流を訪ねて - 鈴木商店とマッチ産業の盛衰 - 」
< 於：社会科学系図書館 >
- 20 (水) 第3回近畿イニシア運営委員会
< 於：大阪府立大学 出席：管理課長 >
第3回全国図書館大会兵庫大会準備委員会
< 於：兵庫県立図書館 出席：部長 >
- 27 (水) 事業計画に係るヒアリング
< 於：農学研究科大会議室 出席：部課長・管理課長補佐(社会)・サー
ビス課長補佐・企画係長 >
- 29 (金) シンポジウム「図書館利用者を知る」
< 於：大阪大学 出席：2名 >

< 3月 >

- 3 (月) ~ 7 (金) 会計検査員実地検査
- 5 (水) 第5回人文科学図書館図書委員会
第2回保健科学図書室図書委員会
- 10 (月) 第2回海事科学分館図書委員会
- 11 (火) 第2回医学分館図書委員会

- 12 (水) 第2回医学図書館協会・継続教育コース実行委員会
< 於：関西医科大学 出席：管理課長補佐(医学) >
- 18 (火) 第3回社会科学系図書館図書委員会
監査法人による期中監査
- 19 (水) 第4回附属図書館運営委員会 < 於：自然科学系図書館 >
- 25 (火) 学位記授与式 < 於：ワールド記念ホール >
- 26 (水) 第6回図書館係長会議 < 於：自然科学系図書館 >
- 27 (木) 神戸大学永年勤続者表彰式 < 於：六甲ホール >
- 27 (木) ~ 4月8 (火) 人間科学図書館(改修に伴う臨時休館)